

アスファルト防水

2020

改質アス常温複合工法シリーズ

アスレイヤ・ネオ

ASLAYER・neo

レイヤオール工法 / アスレイヤ水性工法

東西アスファルト事業協同組合

vol.2

アスファルト防水の信頼性と汎用性はそのままに
火を使わない環境対応型工法として、更に進化したアスファルト防水

改質アス常温複合工法シリーズ

アスレイヤ・ネオ

ASLAYER・neo

「アスレイヤ・ネオ」は2つの工法を束ねた総称。いずれも塗膜材を用いて専用のアスファルト系シートを貼りつける手法で、熱工法に匹敵する防水層を作り上げることができます。目的や条件によって使い分けができる、まさに適材適所を体現する工法です。

従来の熱工法と組み合わせる複合仕様も可能になり、活躍範囲がより大きく広がっています。

使用シーンにあわせて選択できる2工法

どこでも施工可能な万能工法

レイヤオール工法

適用範囲 …… 屋内・屋外

仕上げ …… 保護コンクリート仕上げ
………… 砂付仕上げ・FRAT仕上げ

- 冬季5°C以下でも施工可能
- A剤・B剤の着色化で目視による攪拌管理が可能
- 立上りは、砂付または塗膜仕上げを選択可能

▶P03~21

屋内施工でも安心安全

アスレイヤ水性工法

適用範囲 …… 屋内

仕上げ …… 保護仕上げ

- 一般の水性材に比べて硬化の速い反応硬化タイプ
- 施工環境・温度条件に合わせた3種類(標準・夏用・速硬化)の硬化剤を用意

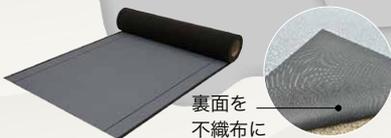
▶P25~26

アスレイヤneoを支えるルーフィング、シート

高い初期接着性能で納まりを強化

【レイヤベスト】

レイヤベストは、従来材(レイヤソフト)に比べ、オールコートとの初期接着性を向上させたルーフィングです。従来の薄く柔軟性がある特性を残しつつ、ルーフィング裏面を不織布とすることで素早くしっかり密着し、施工翌日から十分な接着強度を発揮します。



立上りが高い時でも納めやすい

【マットFCⅡ】

立上りが高い場合やパイプ周りなど、レイヤベストやレイヤソフトでは納まりにくい場所で活躍するのが「マットFCⅡ」です。メッシュを埋める要領で塗膜材を施工するため、塗布量を目視で確認できます。



優れた柔軟性が確実な納まりを実現

【レイヤソフト】

レイヤソフトは、塗膜粘度の低いレイヤコート水性でもしっかり納まるよう、柔軟性に特化したルーフィングです。

※アスレイヤ水性専用です。

優れた
柔軟性



改質アス常温複合法シリーズ「アスレイヤネオ」の特長

Feature

1

「塗る」と「貼る」の常温複合法

液状の防水材料を塗り、改質アスファルト系シートを貼る、塗って貼る、を繰り返します。

不定形材と定形材の組み合わせが基本であるアスファルト防水の信頼性を受け継いだ工法です。



Feature

2

火を使えない現場に

火を用いることなく施工できるため、火気禁止の現場でも安心して採用いただけます。



Feature

3

施工環境にも配慮

すべての工法で「F☆☆☆☆」および「VOC(揮発性有機化合物)自主規制表示登録」を取得しています。屋内においてもホルムアルデヒドおよびVOCを心配することなく、ご使用になれます。

※屋内での施工時は換気を充分に行ってください。

Feature

4

技術審査証明取得

レイヤオール工法とアスレイヤ水性工法それぞれで技術審査証明を取得しています。



レイヤオール工法 仕様番号の見方

P

適用部位

P:屋外・保護コンクリート仕上げ
F:屋外・FRAT 仕上げ
S:屋外・露出砂付仕上げ
I:屋内・保護仕上げ

L

工法

L:レイヤオール工法

S

—

S:絶縁※
なし:密着※
V:立上り部
※保護コンクリート仕上げのみ適用

-

2

ルーフィング枚数

R

—

【平面部】
R:保護断熱
G:露出断熱
GF:露出断熱(防湿層あり)

【立上り部】

T:マットFCII 塗膜仕上げ
T砂付:マットFCII 砂付仕上げ
B:レイヤベスト保護仕上げ
BT:レイヤベスト 塗膜仕上げ
B砂付:レイヤベスト砂付仕上げ
H:マットFCII 保護仕上げ
F:他工法との複合仕様

TH

オプション仕上げ

TH:SPサーモコート
SF:SPファインカラー
SD:SPミッドカラー
SC:SPクリーンカラー
BC:バリキャップ

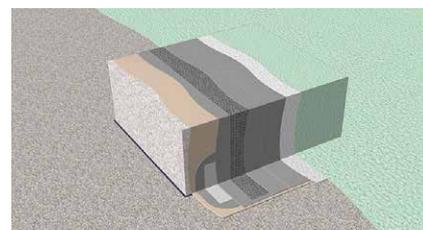
どこでも施工可能な万能工法 レイヤオール工法

保護仕上げから露出仕上げまで対応可能、 どこでも施工可能な万能工法

レイヤオール工法で使用する塗膜材オールコートはA剤・B剤を混合する反応硬化型です。気温が5°C以下でも施工が可能です。流動性に優れ、水密性もしっかり確保できます。

使用場所に制限がない万能工法

屋外／屋内、保護／露出の別を問わないことはもちろん、熱工法やBANKS工法などと組み合わせることも可能です。塗膜材の特性を活かし、きょうあい架台や狭隘部分の施工が効率的かつ確実になります。



多彩な仕上げ

平面部では保護コンクリート仕上げ、FRAT 仕上げ、露出砂付仕上げから仕上げを選択することができます。また立上り部においても、保護仕上げ、露出塗膜仕上げ、露出砂付仕上げの3つから状況に応じて選択することが可能です。

立上り仕上げイメージ

レイヤオール工法における立上り部は、3つの仕上げバリエーションから選ぶことができます。状況に応じて選択してください。



露出塗膜仕上げ



保護仕上げ

※この上にFG ボードやモルタルで仕上げます。



露出砂付仕上げ

立上り塗膜仕上げ

端部固定金物が不要となり、複雑部位や狭隘なサッシ廻り等でも、確実に納めることができます。



技術審査証明取得

官公庁などで採用されているアスファルト防水は、ルーフィングを3～4層積層する仕様が一般的ですが、かねてより東西アスではより性能の高いルーフィングを用いることで、積層数を減らす試みを行ってきました。そして「レイヤオール工法」のいくつかの仕様において、公共建築工事標準仕様書と同等の性能を有するとして(一財)日本建築センターより、技術審査証明(建築技術)を取得しています。



【技術審査証明取得一覧】

種別	公共建築工事 標準仕様書	レイヤオール工法
屋根露出防水	D-1	SL-2
	D-2	SL-2
	D-3	SL-2
	D-4	SL-2
屋根露出断熱防水	DI-1	SL-2G、SL-2GF
	DI-2	SL-2G、SL-2GF
屋根保護防水	A-1	PLS-2、PL-1
	A-2	PLS-2、PL-1
	A-3	PLS-2、PL-1
	B-1	PLS-2
	B-2	PLS-2
	B-3	PLS-2
屋根保護断熱防水	AI-1	PLS-2R、PL-1R
	AI-2	PLS-2R、PL-1R
	AI-3	PLS-2R、PL-1R
	BI-1	PLS-2R
	BI-2	PLS-2R
	BI-3	PLS-2R
屋内防水	E-1	IL-1
	E-2	IL-1

常温複合工法(レイヤオール工法)で各種技術審査証明取得。露出、露出断熱仕様にも対応。

気温が5℃以下でも施工が可能

レイヤオール工法で使用する塗膜材「オールコート」A剤・B剤を混合する反応硬化型です。気温が5℃以下でも施工が可能です。流動性に優れ、水密性もしっかり確保できます。加えて、アスレイヤ硬化促進剤を用いることで効率的な施工が可能です。

【添加量と可使用時間、次工程可能時間について】

気温	硬化促進剤添加量	可使用時間	次工程可能時間
5℃	0(未添加)	60分以上	30時間
5℃	0.5%	約50分	12時間
0℃	0.8%	約40分	10時間
-5℃(参考)	1.0%	約30分	10時間

※「次工程可能時間」は気を付ければ上に乗ることが出来、次の工程(オールコートの塗り継ぎ、保護塗料の施工)可能な時間のことを指します。
 ※左記の可使用時間、次工程可能時間は現場環境によって前後する可能性があります。
 ※添加過剰となると、シートに不具合を起こす場合があります。所定の量をお守りください。

長寿命化・CO₂削減に貢献する

FRAT仕上げとは

防水層表層のFRAT化⇒コンクリート保護なしでの高耐久化を実現

耐久性の高い防水として保護コンクリート仕上げが採用される現場は少なくありませんが、コンクリートに用いるセメントは製造時に多量のCO₂を排出します。保護コンクリートを打設することは、①保護コンクリートそのもの、②保護コンクリートの荷重を支えられる構造体 という2つの点で、より多くのコンクリートを使用することにつながります。従来のアスファルト防水保護コンクリート仕上げに匹敵する耐用年数以上の性能を有する「FRAT仕上げ」を用いることで、長寿命化とコンクリート減量(=CO₂削減)の両立が可能です。

露出仕上げ用「強力フラットA」は表層の金属箔積層繊維面材により、保護塗料被膜が均一に形成され、かつ繊維補強効果により塗料本来の性能が長く保たれることで、長期にわたり耐候性を維持し続けます。



表層=金属箔積層繊維面材



施工イメージ(逆巻きのため裏表に注意)

「露出防水=砂付仕上げ」の概念を変えた 全く新しい露出用ルーフィング「強力フラットA」

強力フラットAは従来の砂付ルーフィングに代わる次世代の仕上げ用ルーフィングです。金属箔積層繊維面材上に遮熱塗料を含浸・造膜させることで、防水層の保護・遮熱性能の長時間の持続を可能にしました。また、防水層を劣化させる物理的な要因にも強く、高耐久仕様の仕上げに最適なルーフィングです。



「強力フラットA」

【フラット (FRAT) とは】

「Fiber Reinforced Acrylic resin Treatment (繊維補強アクリル処理面材)」の頭文字をとったものです。

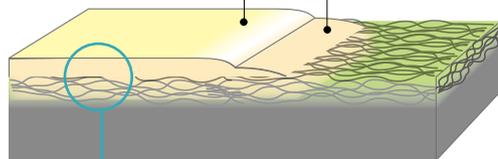
【強力フラットA表層構成イメージ】

高反射塗料

塗料が繊維に含浸、
繊維補強塗膜に



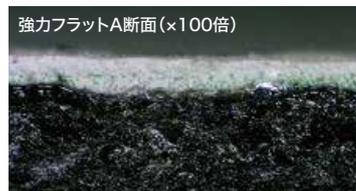
SPサーモコート SPファインカラー



均一で厚みのある高反射塗料の塗膜が
確保され、遮熱機能が長時間持続

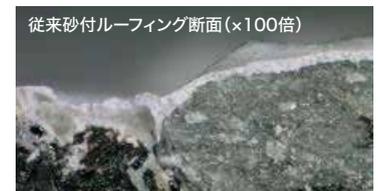
防水層が長持ち

【保護塗料保持性能比較】



強力フラットA断面(×100倍)

アクリル樹脂系保護塗料 0.4kg/m²
「塗料膜厚は均一化しやすい」



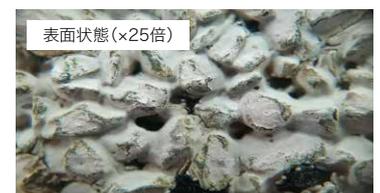
従来砂付ルーフィング断面(×100倍)

アクリル樹脂系保護塗料 0.4kg/m²
「塗料膜厚に厚薄が生じる」

促進老化試験(キセノンウェザーメーターにて10,000時間)
・51-9C法(ASTMに準拠)『51分間Dry(試験体温度60°C)-9分間Wet』



表面状態(×25倍)



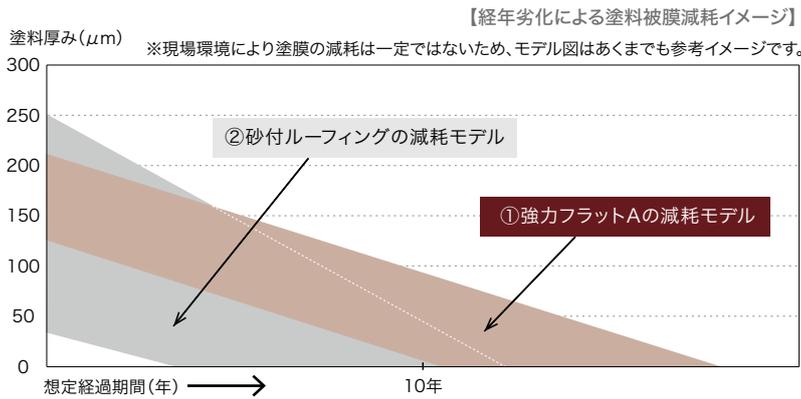
表面状態(×25倍)

保護塗料を同一塗布量を塗布した場合、強力フラットAは砂付ルーフィングと比べ、厚みのある被膜層を形成し、促進老化試験後も良好な状態を保持しています。

高反射塗料の減耗率予測

グラフは高反射塗料 (SPファインカラー仕様: 0.4kg/m²) を強力フラット A の金属箔積層繊維面材上に塗布した場合と、従来の砂付面上に塗布した場合の経年による塗料被膜減耗をグラフ化したものです。経過期間により塗料被膜は減耗していきますが、金属箔積層繊維面材は従来の砂付面に比べ長期間、日射反射効果が期待できるという結果になっています。

※現場環境等により塗料劣化は一定ではないため、あくまでも参考イメージです。



■塗料減耗率の算出

試験サンプルにて定点の厚み測定し、促進老化試験(キセノン)にて時間毎の塗膜厚みを測定していき、減耗率を算出する。実暴露想定での減耗量から、各仕上げにおける塗料減耗モデル図を作成。

①FRAT仕上げ

- 繊維補強効果により減耗傾きが緩やか
- 塗膜厚は均一化しやすい

②砂付仕上げ

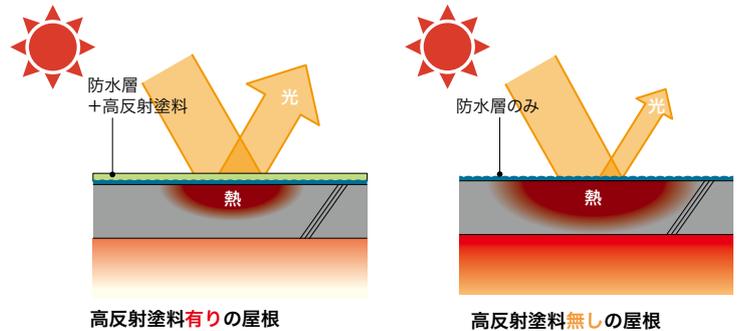
- 砂面凹凸により塗膜厚が不均一
- アスファルト面に接している塗膜減耗はやや早い

砂付仕上げに比べ、FRAT仕上げによる塗料減耗の傾きは緩やかであり、遮熱効果を長期間維持することが期待できます。

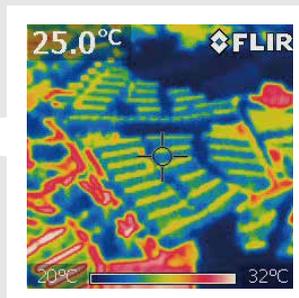
高反射塗料の効果

防水層に遮熱機能を付与するには、太陽光を反射する高反射塗料の塗布が効果的です。これらを防水層表面に塗布することで、特に熱エネルギーとして吸収されやすい近赤外線を反射し、夏場の防水層表面温度上昇を抑える効果を発揮します。

熱による防水層劣化を抑制し長持ちさせるだけでなく、都市部で問題となっているヒートアイランド現象の緩和などにも貢献します。



【サーモコントロール断熱で防水改修した建物屋根表面温度】 (サーモグラフィカメラで撮影: 2021年6月16日 外気温22.2°C)



実際に高反射塗料を施工した屋上の周りの建物と比較してみてもその効果が確認できました。

サーモコントロール断熱

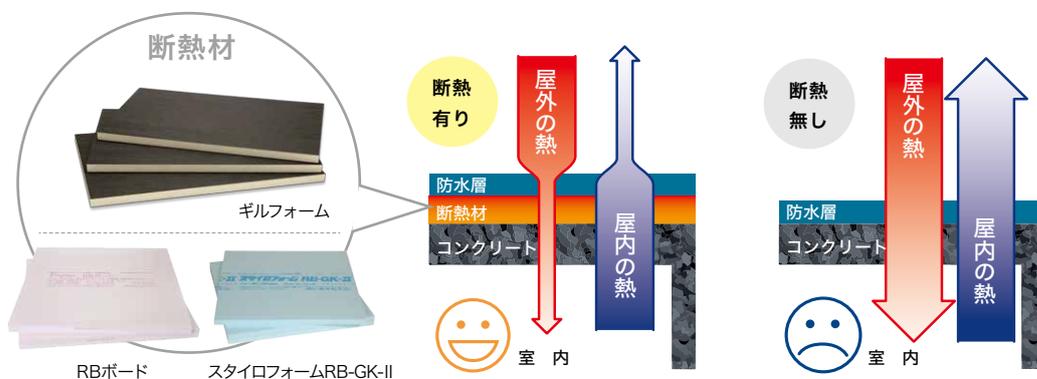
遮熱・断熱によるCO₂排出量削減

過酷な環境にある屋上防水は、高反射塗料による遮熱と断熱材による熱エネルギー（太陽光）の流入を抑えることで、建物の冷暖房に費やすエネルギー量を減少させ、CO₂排出量削減に大きな効果をもたらします。また夏の高温時に建物温度の上昇を抑えることは、熱による防水層劣化を抑制し長持ちさせるばかりでなく、ヒートアイランド現象の緩和にも貢献します。

建物の外側に断熱材をプラスすることで、夏は屋外の熱を室内に伝えにくく、冬は室内の熱を外部に逃しにくい効果が得られます。

「断熱」

熱を伝えにくくする機能

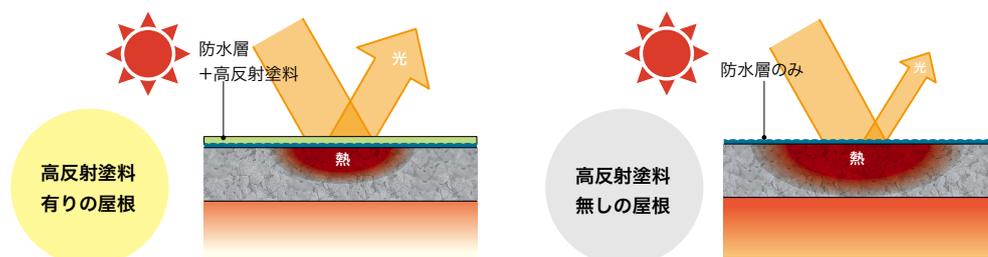


「遮熱」

光を反射して熱量を軽減する機能



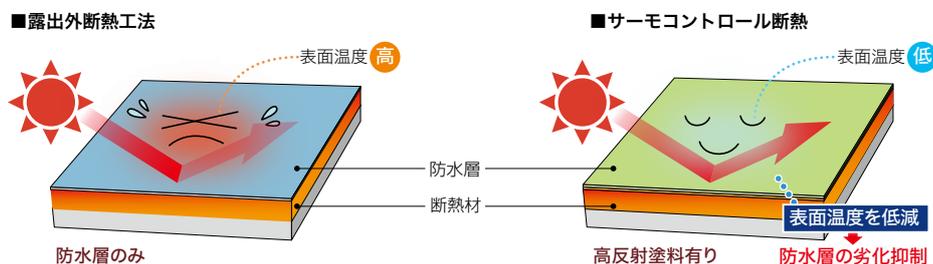
太陽光は物に当たると熱エネルギーに変換されます。遮熱とは、太陽光、特に熱エネルギーとして吸収されやすい近赤外波長領域を反射させることでこの熱量を軽減する機能のことです。高反射機能を持つ塗料を防水層表面に塗布することで、近赤外波長領域を反射し、夏場の屋上表面温度を下げる効果が得られます。



サーモコントロール断熱

「断熱」+「遮熱」

屋上防水を露出外断熱工法で施工した場合、断熱材の上に防水層が配置されるため、防水層が熱によって劣化することが懸念されます。高反射塗料を塗布することによって夏場における表面温度を低減する効果が生まれます。外断熱と遮熱を組み合わせた「サーモコントロール断熱」は、防水層の劣化を抑制し、より長持ちさせることができるのです。



建物に要求される断熱性能

建物の内部と外部を隔てる境界部分である外壁・屋根・窓などのことを「外皮」と呼び、これらの部位には断熱性、気密性、遮音性などが求められます。断熱性能については「外皮平均熱貫流率(UA)」で表され、地域によって達成基準となるUA値が定められています。

■共同住宅の単位住戸の外皮基準※

都道府県名	地域区分	外皮平均熱貫流率 (UA) 単位: W/m ² K
北海道	1.2	0.46
青森県・岩手県・秋田県	3	0.56
宮城県・山形県・福島県・新潟県・長野県・栃木県	4	0.75
茨城県・群馬県・山梨県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・滋賀県 埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・愛知県・三重県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県 和歌山県・鳥取県・島根県 岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県	5.6	0.87
宮崎県・鹿児島県	7	0.87
沖縄県	8	—

※平成二十八年経済産業省・国土交通省第一号 建築物エネルギー消費性能等を定める省令 第一条の二イ(1)より引用

高反射保護塗料 (SPサーモコート/SPファインカラー/SPミッドカラー/SPクリーンカラー)

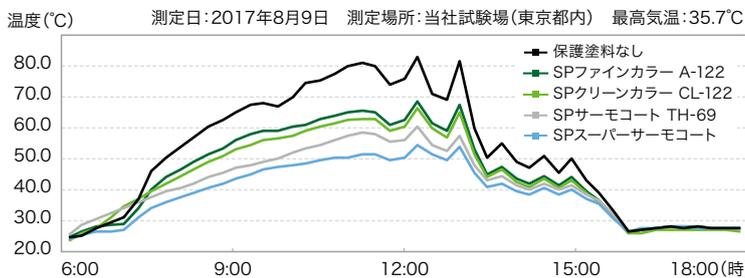
SPサーモコート/SPファインカラー/SPミッドカラー/SPクリーンカラーは、高反射機能を持つアスファルト露出防水専用保護塗料です。明るい色調が鮮やかに屋上を彩ります。水性ですので、施工も安心です。色により反射率が異なります。

SPサーモコート		日射反射率	SPファインカラー		日射反射率	SPミッドカラー		日射反射率	SPクリーンカラー		日射反射率
サーモグレー TH-109		77.5%	ライトグレー A-101		74.6%	ミッドグレー I-103		60.4%	CLグレー CL-109		78.0%
サーモアイボリー TH-69		76.9%	マットシルバー A-122		72.0%	ミッドリーフ I-27		57.6%	CLマットシルバー CL-122		75.8%
サーモグリーン TH-29		75.9%	ライトブラウン A-66		74.2%	ミッドベージュ I-63		63.1%	CLアイボリー CL-69		77.9%
			ミントグリーン A-25		76.6%	ミッドチェリー I-33		66.7%			

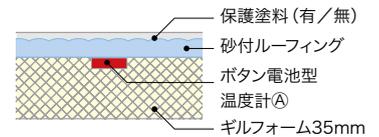
※表中の日射反射率(%)は、近赤外線領域(780~2,500nm)における数値

※各色は印刷のため、現物との差がありますので、ご決定の際は色見本帳などをご参照ください。

■防水の温度推移比較



【試験体断面図】
砂付ルーフィングと、断熱材ギルフォームの間に温度計を設置し、測定。



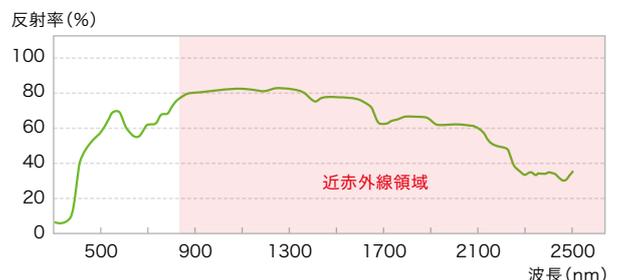
試験体	①温度°C(12時15分)	温度差※
保護塗料なし	83.0	—
SPファインカラー A-122	68.5	14.5
SPクリーンカラー CL-122	66.5	16.5
SPサーモコート TH-69	60.5	22.5
SPスーパーサーモコート TH-1000	54.5	28.5

※保護塗料なしを基準とした温度差

■日射反射率(分光反射率)グラフ (財)日本塗料検査協会試験による

品名	日射反射率(%)		
	全波長領域 300~2500nm	可視光領域 300~780nm	近赤外領域 780~2500nm
SPサーモコート サーモグリーン (TH-29)	64.5	56.0	75.9

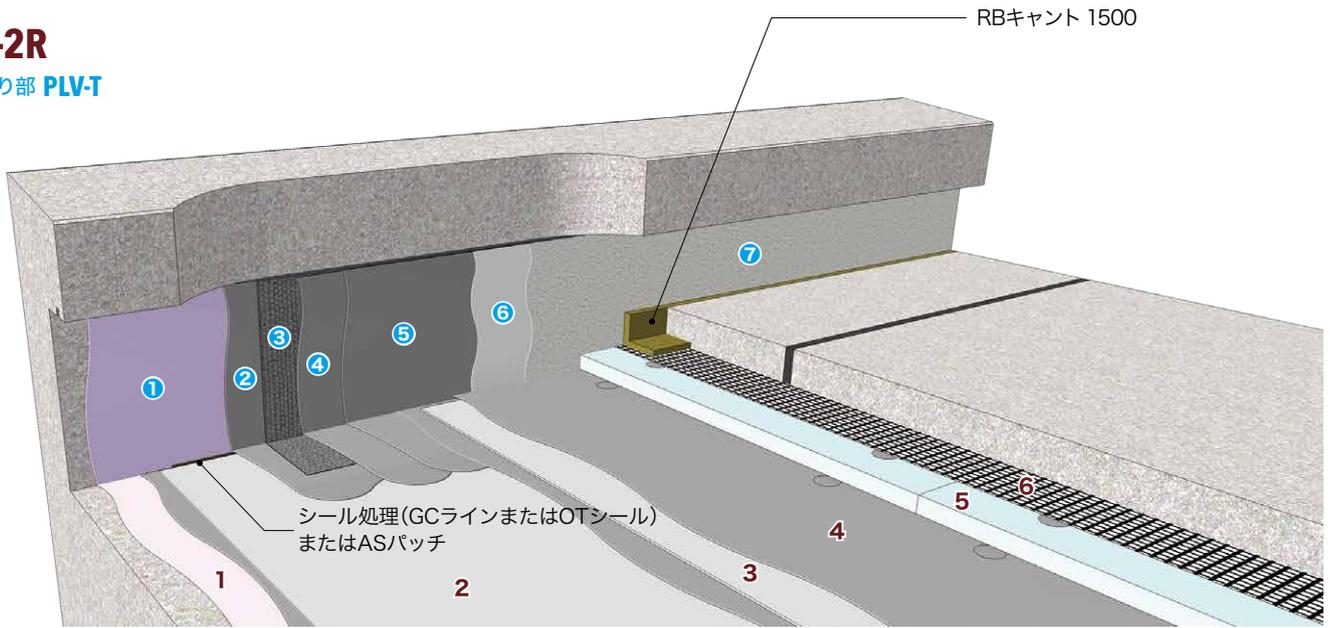
※近赤外領域は可視光領域に比べ熱に変換されやすく、この領域をより多く反射する方が遮熱効果が高いことになります。



保護コンクリート仕上げ

PL-2R

立上り部 **PLV-T**



平面部

PLS-2 非断熱

適正勾配: 1/100~1/50
重量目安: 5kg/m²

技術審査証明:

A-1、2、3およびB-1、2、3各仕様対応

(単位:/m ²)		
1	水性プライマー-L	0.2kg
2	強力アンダー-FS	
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2~1.3kg
4	オールコート	0.8kg
5	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

PL-2 非断熱

適正勾配: 1/100~1/50
重量目安: 6kg/m²

(単位:/m ²)		
1	水性プライマー-L	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2~1.3kg
3	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2~1.3kg
4	オールコート	0.8kg
5	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

PLS-2R 断熱

適正勾配: 1/100~1/50
重量目安(断熱材60mm): 7kg/m²

技術審査証明:

AI-1、2、3およびBI-1、2、3各仕様対応

(単位:/m ²)		
5	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II オールコート立上り用 点貼り	
6	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

PL-2R 断熱

適正勾配: 1/100~1/50
重量目安(断熱材60mm): 8kg/m²

(単位:/m ²)		
5	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II オールコート立上り用 点貼り	
6	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

立上り部

PLV-T

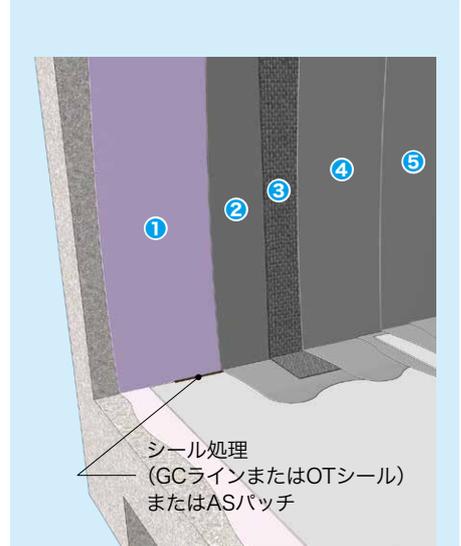
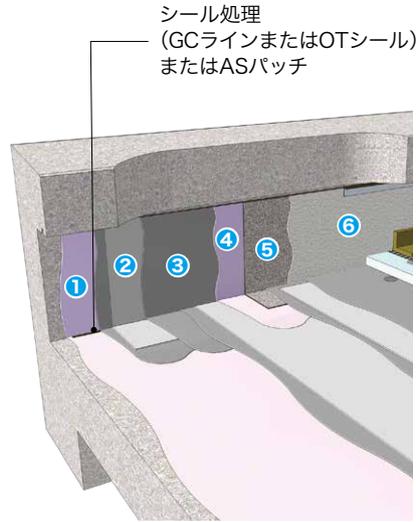
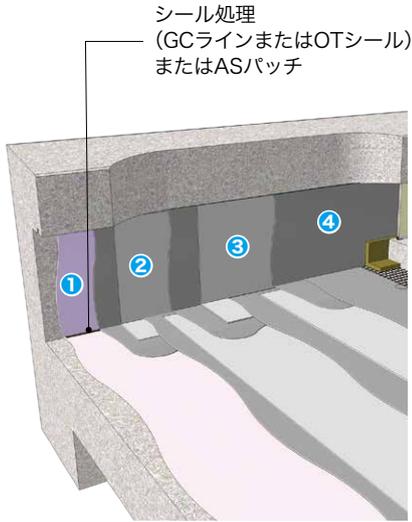
塗膜仕上げ (単位:/m ²)			
1	水性プライマー-L	0.2kg	
2	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
3	マットFCII		
4	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
5	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
6	SPベース	0.45kg	
7	保護塗料	SPサーモコート	0.4~0.6kg
		SPファインカラー	0.15~0.3kg
		SPミッドカラー	0.2~0.3kg

PLV-T 砂付

砂付仕上げ (単位:/m ²)			
6	水性プライマー-L	0.15kg	
7	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
8	保護塗料	SPサーモコート※1	0.8~1.2kg
		SPファインカラー	0.4~0.6kg
		SPミッドカラー	0.5~0.7kg

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

立上り部 オプション



PLV-2B

保護仕上げ	(単位:/m ²)
① 水性プライマーL	0.2kg
② レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
③ レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
④ オールコート立上り用	0.8kg

※工程②を強クアンダーFに変更することができます。

PLV-1B 砂付

砂付仕上げ	(単位:/m ²)						
① 水性プライマーL	0.2kg						
② レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg						
③ オールコート立上り用	0.8kg						
④ 水性プライマーL	0.15kg						
⑤ 新強力エコフィットC(端部GCライン)							
⑥ 保護塗料	<table border="1"> <tr> <td>SPサーモコート※1</td> <td>SPファインカラー</td> <td>SPミッドカラー</td> </tr> <tr> <td>0.8~1.2kg</td> <td>0.4~0.6kg</td> <td>0.5~0.7kg</td> </tr> </table>	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー	0.8~1.2kg	0.4~0.6kg	0.5~0.7kg
SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー					
0.8~1.2kg	0.4~0.6kg	0.5~0.7kg					

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

PLV-H

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時はPLV-Hをご採用いただけます。

保護仕上げ	(単位:/m ²)
① 水性プライマーL	0.2kg
② オールコート立上り用	1.2~1.3kg
③ マットFC II	
④ オールコート立上り用	1.2~1.3kg
⑤ オールコート立上り用	1.2~1.3kg

※防水層端末金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛金物「モルタルハンガー」を使用してください。

共通注意事項

- ・平面部PLS-2、PL-2、PLS-2R、PL-2Rに対し、立上り部はPLV-2B、PLV-T、同砂付、PLV-1B砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。
- ・水性プライマーLをOTプライマーA(0.2kg/m)に替えることができます。

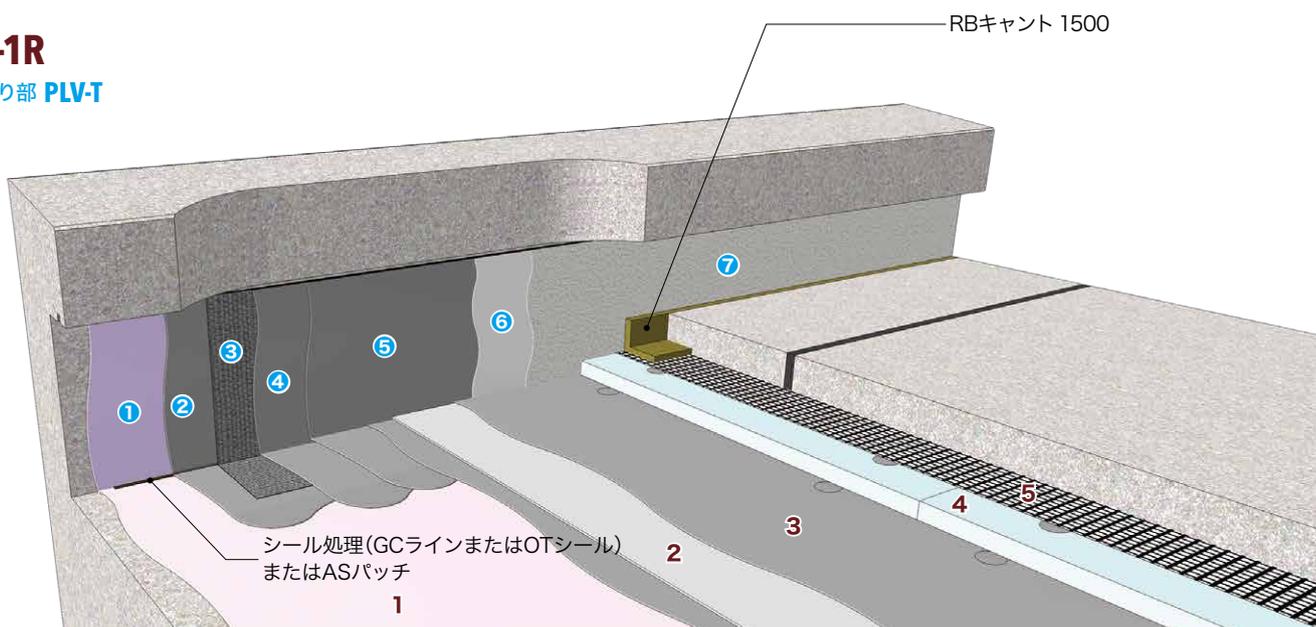
立上り部 共通注意事項

- ・入隅部は塗膜材の膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/mまたはASパッチを選定し、ご使用下さい。
- ・砂付仕上げの場合、防水層端末金物が必要です。

保護コンクリート仕上げ

PL-1R

立上り部 PLV-T



平面部

PL-1

非断熱

適正勾配: 1/100~1/50

重量目安: 3.5kg/m²

技術審査証明: A-1、2、3仕様対応

		(単位: /m ²)
1	水性プライマーL	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート・塗布貼付	1.2~1.3kg
3	オールコート	0.8kg
4	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

PL-1R

断熱

適正勾配: 1/100~1/50

重量目安(断熱材60mm): 5kg/m²

技術審査証明: AI-1、2、3仕様対応

		(単位: /m ²)
4	RBボード または スタイロフォームRB-GK-II オールコート立上り用 点貼り	
5	絶縁クロス1000 オールコート立上り用 点貼り	

立上り部

PLV-T

塗膜仕上げ

		(単位: /m ²)	
①	水性プライマーL	0.2kg	
②	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
③	マットFCII		
④	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	SPベース	0.45kg	
⑦	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
			SPミッドカラー 0.2~0.3kg

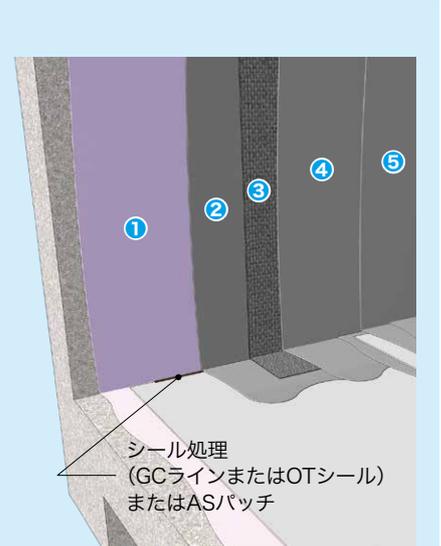
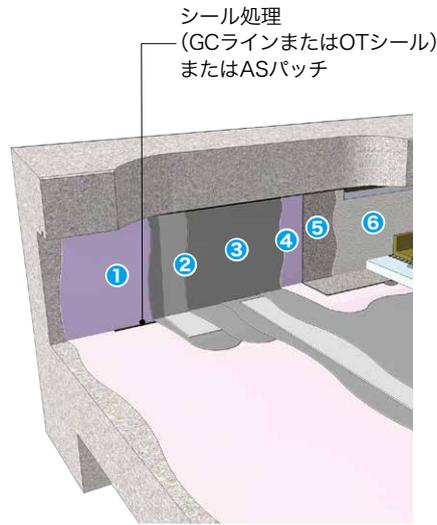
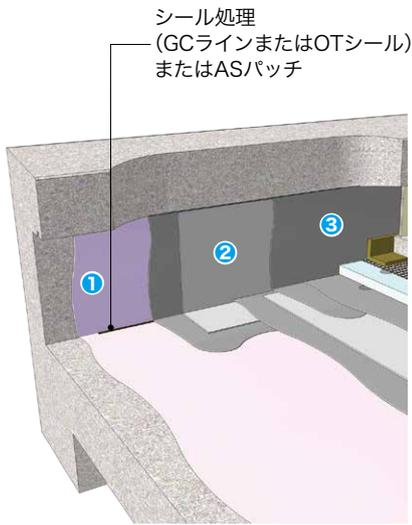
PLV-T 砂付

砂付仕上げ

		(単位: /m ²)	
⑥	水性プライマーL	0.15kg	
⑦	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
⑧	保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg*1	SPファインカラー 0.4~0.6kg
			SPミッドカラー 0.5~0.7kg

*1 SPサーモコートは2回塗り計です。

立上り部 オプション



PLV-1B

PLV-1B 砂付

PLV-H

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時はPLV-Hをご採用いただけます。

保護仕上げ	(単位:/m ²)
① 水性プライマー-L	0.2kg
② レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
③ オールコート立上り用	0.8kg

※動きが想定される下地(S造、ALC等)の場合は立上り入隅部に増貼り(オールコート立上り用1.2~1.3kg/m²+レイヤベスト)が必須です。

砂付仕上げ	(単位:/m ²)
① 水性プライマー-L	0.2kg
② レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
③ オールコート立上り用	0.8kg
④ 水性プライマー-L	0.15kg
⑤ 新強力エコフィットC(端部GCライン)	

⑥ 保護塗料	SPサーモコート※1	SPファインカラー	SPミッドカラー
	0.8~1.2kg	0.4~0.6kg	0.5~0.7kg

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。

保護仕上げ	(単位:/m ²)
① 水性プライマー-L	0.2kg
② オールコート立上り用	1.2~1.3kg
③ マットFC II	
④ オールコート立上り用	1.2~1.3kg
⑤ オールコート立上り用	1.2~1.3kg

※防水層端末金物は不要です。
※モルタル仕上げの場合は、最終工程にPシートを追加の上、ラス網引掛金物「モルタルハンガー」を使用してください。

共通注意事項

- ・平面部PL-1、PL-1Rに対し、立上り部はPLV-T、同砂付、PLV-1B、同砂付、PLV-Hのいずれも対応できます。
- ・ストライプ工法、BANKS工法平面部とレイヤオール立上り各工法を組合わせて使用することも可能です。
- ・取り扱いについては別途資料がございますのでお問い合わせください。
- ・水性プライマー-LをOTプライマー-A(0.2kg/m²)に代えることができます。

立上り部 共通注意事項

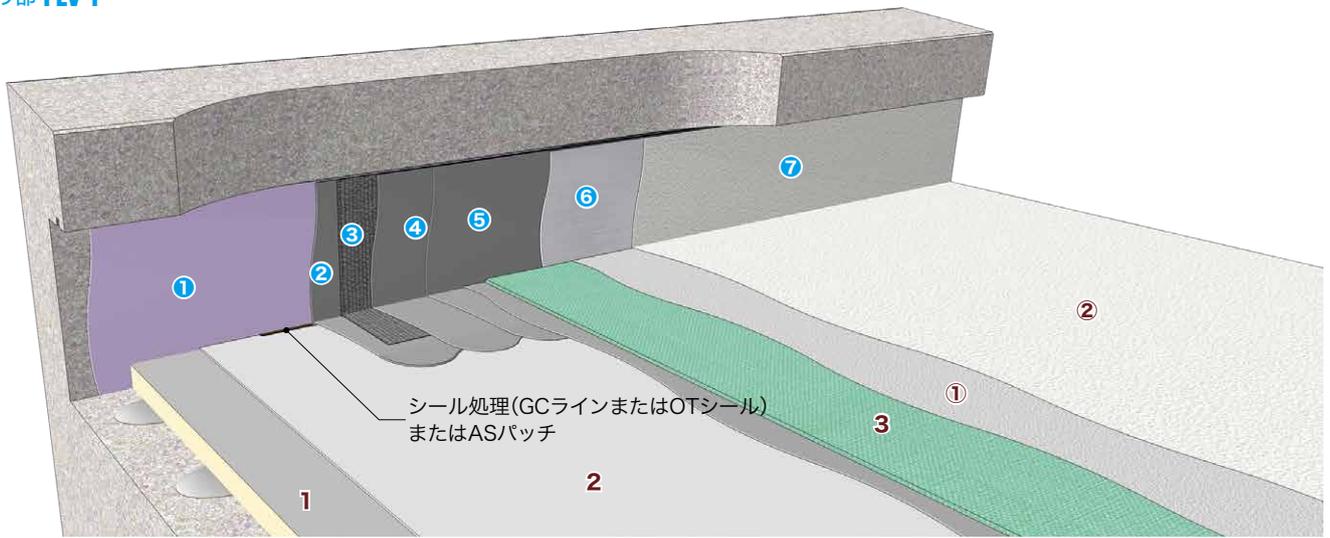
- ・入隅部は塗膜材の膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シーリング材(GCラインまたはOTシーリング)約50cc/mまたはASパッチを選定し、ご使用ください。
- ・砂付仕上げの場合、防水層端末金物が必要です。

FRAT仕上げ

高耐久

FL-2G

立上り部 FLV-T



平面部

FL-2GFシリーズ

断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安(断熱材50mm): 9kg/m²

防湿層あり

		(単位:/m ²)	
1	水性プライマー-L	0.2kg	
2	ダンパーシート		
3	ギルフォーム		
4	強力アンダー-FS		
5	強力フラットA オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg	
①	保護塗料	SPファインカラー 0.2~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
②	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
仕様番号	FL-2GF・TH	FL-2GF・SF	FL-2GF・SD

FL-2Gシリーズ

断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安(断熱材50mm): 8kg/m²

		(単位:/m ²)		
1	ギルフォーム クールボンド点貼り*	0.35kg		
2	強力アンダー-FS			
3	強力フラットA オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg		
①	保護塗料	SPファインカラー 0.2~0.3kg		SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
②	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
仕様番号	FL-2G・TH	FL-2G・SF	FL-2G・SD	

*クールボンドを水性プライマー-MS(0.2kg/m²)+セメントMS線状塗布(0.6kg/m²)に代えることができます。

FL-2シリーズ

非断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安: 6kg/m²

		(単位:/m ²)		
1	水性プライマー-L	0.2kg		
2	強力アンダー-FS			
3	強力フラットA オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg		
①	保護塗料	SPファインカラー 0.2~0.3kg		SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
②	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
仕様番号	FL-2・TH	FL-2・SF	FL-2・SD	

平面部 共通注意事項

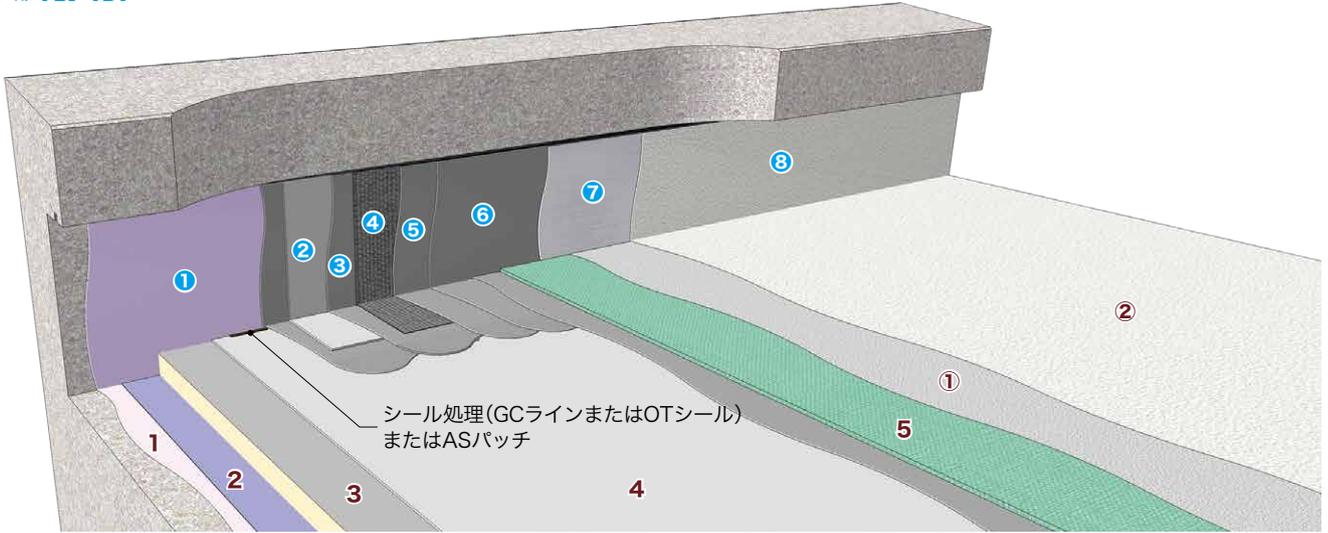
- ・平面部FL-2G、FL-2GFに対し、どちらも立上り部はFLV-Tまたは、FLV-1BTのどちらかとなります。
- ・防火認定が必要な場合はSPサーモコートの塗布量が0.8kg/m²(2回塗布合計)が必要です。
- ・水性プライマー-LをOTプライマー-A(0.2kg/m²)に代えることができます。

SPサーモコート仕上げにおける保護塗料推奨組合せ

保護塗料工程	
①SPファインカラー	②SPサーモコート
ライトグレー	サーモグレー
ライトブラウン	サーモアイボリー
ミントグリーン	サーモグリーン

FL-2GF

立上り部 FLV-1BT



立上り部

FLV-T

FLV-1BT

塗膜仕上げ		(単位:/m ²)	
①	水性プライマーL	0.2kg	
②	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
③	マットFCII		
④	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	SPベース	0.45kg	
⑦	保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー
		0.4~0.6kg	0.15~0.3kg
		SPミッドカラー	
		0.2~0.3kg	

塗膜仕上げ		(単位:/m ²)	
①	水性プライマーL	0.2kg	
②	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg	
③	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
④	マットFCII		
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑦	SPベース	0.45kg	
⑧	保護塗料	SPサーモコート	SPファインカラー
		0.4~0.6kg	0.15~0.3kg
		SPミッドカラー	
		0.2~0.3kg	

改修工事への対応

- ・FL-2G、FL-2GF、FL-2は改修工事にも対応可能です。改修の場合、平面部工程1を下地処理とし、立上り既存防水層については原則撤去とします。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げの下地処理については23ページをご覧ください。
- ・既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

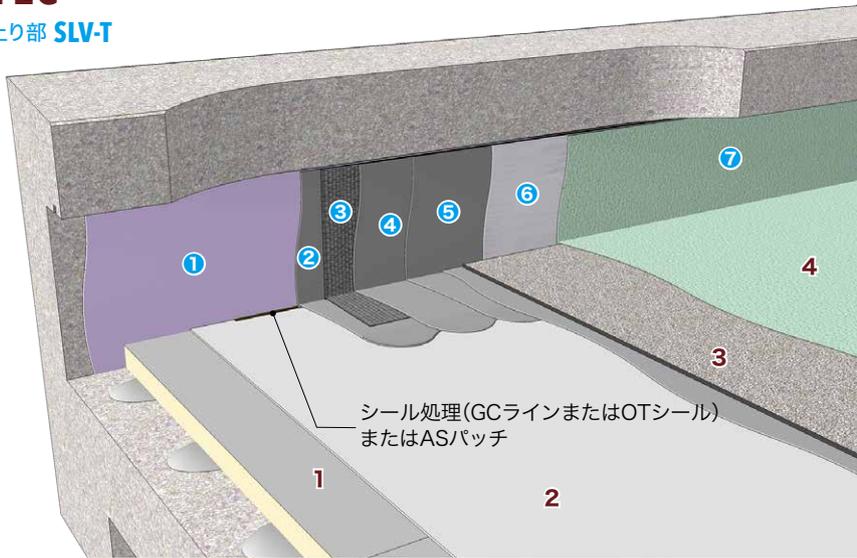
立上り部 共通注意事項

- ・入隅部は塗膜材の膜厚確保のため、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シーリング材(GCラインまたはOTシーリング)約50cc/mまたはASパッチを選定し、ご使用ください。
- ・水性プライマーLをOTプライマーA(0.2kg/m²)に代えることができます。

露出砂付仕上げ

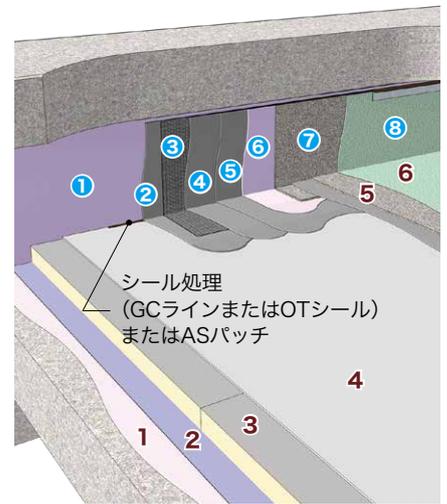
SL-2G

立上り部 SLV-T



SL-2GF

立上り部 SLV-T 砂付



平面部

SL-2GFシリーズ

断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安(断熱材50mm): 11kg/m²
技術審査証明: DI-1、2仕様対応

防湿層あり

		(単位:/m ²)				
1	水性プライマー-L	0.2kg				
2	ダンパーシート					
3	ギルフォーム					
4	強力アンダー-FS					
5	レイヤキャップ オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg				
6	保護 塗料:	SP サーモ コート 0.8~1.2 kg※1	SP ファイン カラー 0.4~0.6 kg	SP ミッド カラー 0.5~0.7 kg	SP クリーン カラー 0.5~0.6 kg※2	
		仕様番号	SL-2GF-TH	SL-2GF-SF	SL-2GF-SD	SL-2GF-SC

SL-2Gシリーズ

断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安(断熱材50mm): 10kg/m²
技術審査証明: DI-1、2仕様対応

		(単位:/m ²)				
1	ギルフォーム クールボンド点貼り*	0.35kg				
2	強力アンダー-FS					
3	レイヤキャップ オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg				
4	保護 塗料:	SP サーモ コート 0.8~1.2 kg※1	SP ファイン カラー 0.4~0.6 kg	SP ミッド カラー 0.5~0.7 kg	SP クリーン カラー 0.5~0.6 kg※2	
		仕様番号	SL-2G-TH	SL-2G-SF	SL-2G-SD	SL-2G-SC

*クールボンドを水性プライマー-MS(0.2kg/m²)+セメントMS線状塗布(0.6kg/m²)に代えることができます。

SL-2シリーズ

非断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安: 8kg/m²
技術審査証明: D-1、2、3、4仕様対応

		(単位:/m ²)				
1	水性プライマー-L	0.2kg				
2	強力アンダー-FS					
3	レイヤキャップ オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg				
4	保護 塗料:	SP サーモ コート 0.8~1.2 kg※1	SP ファイン カラー 0.4~0.6 kg	SP ミッド カラー 0.5~0.7 kg	SP クリーン カラー 0.5~0.6 kg※2	
		仕様番号	SL-2-TH	SL-2-SF	SL-2-SD	SL-2-SC

※1 SPサーモコートは2回塗り計です。
※2 SPクリーンカラーの場合、堆積物が予測される部位は、0.7~0.8kg/m²(2回塗り計)が必要です。

P.15、16共通注意事項

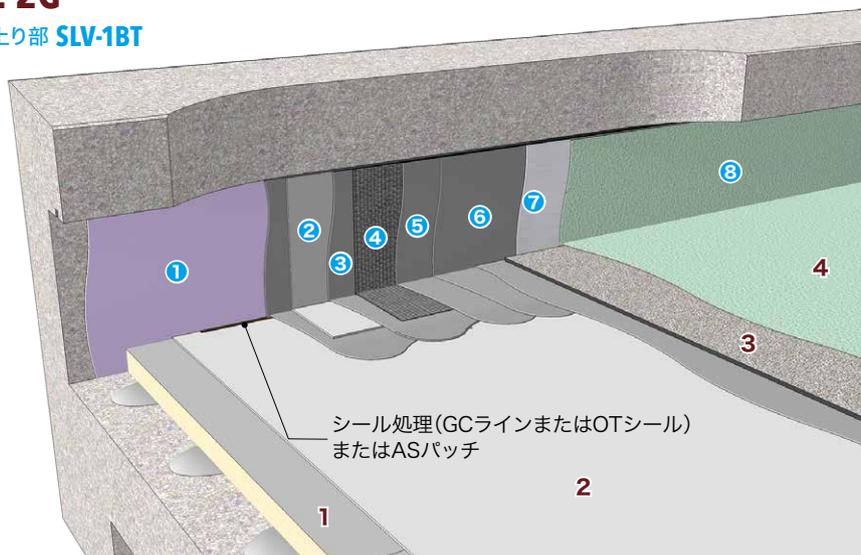
- ・平面部SL-2G、SL-2GFに対し、立上り部はSLV-T、SLV-T砂付、SLV-1BT、SLV-1BT砂付のいずれも対応できます。状況に応じて選択してください。
- ・入隅部は塗膜材の流れ込み防止処置として、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/mまたはASパッチのいずれかを選定し、ご使用ください。
- ・砂付仕上げの場合、防水層端末金物が必要です。

改修工事への対応

- ・SL-2G、SL-2GF、SL-2は改修工事にも対応可能です。改修の場合、平面部工程1を下地処理とし、立上り既存防水層については原則撤去とします。既存下地が保護コンクリート、アスファルト露出仕上げの下地処理については23ページをご覧ください。
- ・既存が塩ビシート防水、ウレタン塗膜防水の場合は営業員までご相談ください。

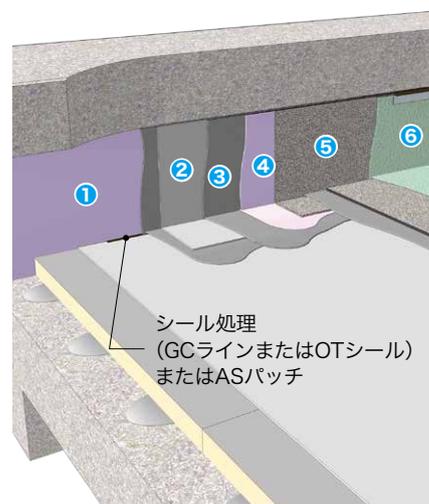
SL-2G

立上り部 SLV-1BT



シーリング処理 (GCラインまたはOTシーリング)
またはASパッチ

立上り部 SLV-1B 砂付



シーリング処理
(GCラインまたはOTシーリング)
またはASパッチ

立上り部

SLV-T

塗膜仕上げ		(単位: /m ²)	
①	水性プライマーL	0.2kg	
②	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
③	マットFCII		
④	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	SPベース	0.45kg	
⑦	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPミッドカラー 0.2~0.3kg	

SLV-1BT

塗膜仕上げ		(単位: /m ²)	
①	水性プライマーL	0.2kg	
②	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg	
③	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
④	マットFCII		
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑦	SPベース	0.45kg	
⑧	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPミッドカラー 0.2~0.3kg	

SLV-T 砂付

砂付仕上げ		(単位: /m ²)	
⑥	水性プライマーL	0.15kg	
⑦	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
⑧	保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg*1	SPファインカラー 0.4~0.6kg
		SPミッドカラー 0.5~0.7kg	SPクリーンカラー 0.5~0.6kg*2

SLV-1B 砂付

砂付仕上げ		(単位: /m ²)	
③	オールコート立上り用	0.8kg	
④	水性プライマーL	0.15kg	
⑤	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
⑥	保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg*1	SPファインカラー 0.4~0.6kg
		SPミッドカラー 0.5~0.7kg	

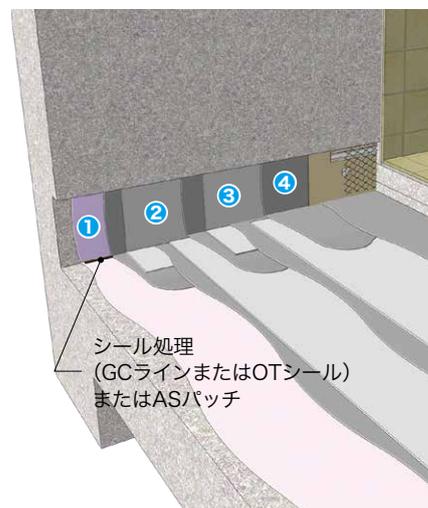
屋内仕様

IL-2

立上り部 **ILV-H**



立上り部 **ILV-2B**



平面部

IL-2 非断熱

重量目安: 6kg/m²

		(単位:/m ²)
1	水性プライマー-L	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg
3	レイヤベスト オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg
4	オールコート	0.8kg

立上り部

ILV-H

		(単位:/m ²)
1	水性プライマー-L	0.2kg
2	オールコート立上り用	1.2~1.3kg
3	マットFC II	
4	オールコート立上り用	1.2~1.3kg
5	オールコート立上り用	1.2~1.3kg

※防水層端末金物は不要ですが、メタルラスを支持するモルタルハンガーは必要となります。

ILV-2B

		(単位:/m ²)
1	水性プライマー-L	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
3	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
4	オールコート立上り用	0.8kg

※工程②を強化アンダーFに変更することができます。

保護モルタル工事の留意点 日本建築学会・建築工事標準仕様書(JASS8)より抜粋

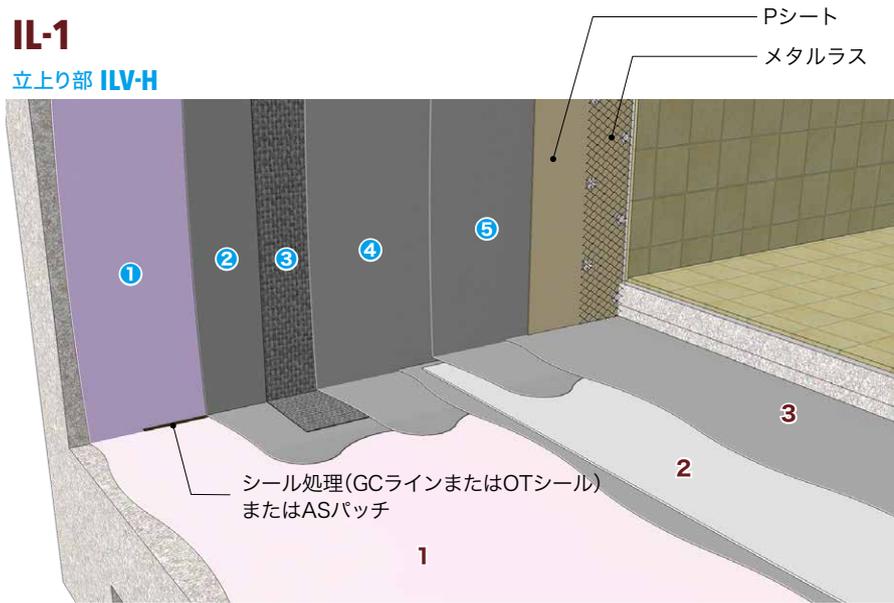
- モルタル調合…セメント:砂=1:3(容積比)
- とんぼ…防水層に200mm間隔程度で千鳥状に取付け
- ラス類…メタルラス(平ラス2号)もしくは溶接金網
- ラス類の立上り端部…防水層立上がり端部より100mm以上上部の位置で金物を用いて下地(躯体)に固定するか、防水層末端部の押え金物に固定する。

共通注意事項

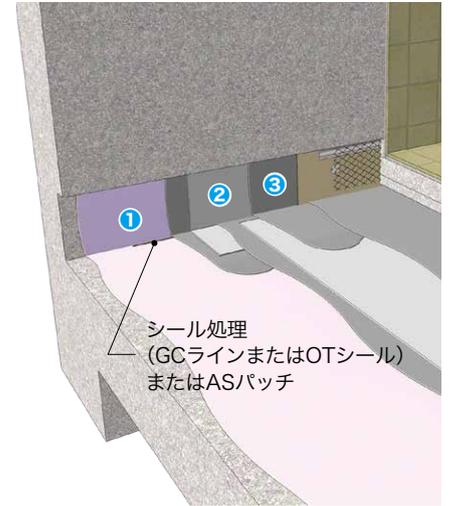
・水性プライマー-LをOTプライマー-A(0.2kg/m²)に代えることができます。

IL-1

立上り部 ILV-H



立上り部 ILV-1B



平面部

IL-1

非断熱

重量目安: 3.5kg/m²

技術審査証明: E-1、2仕様対応

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーL	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート 塗布貼付	1.2~1.3kg
3	オールコート	0.8kg

立上り部

ILV-H

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーL	0.2kg
2	オールコート立上り用	1.2~1.3kg
3	マットFC II	
4	オールコート立上り用	1.2~1.3kg
5	オールコート立上り用	1.2~1.3kg

※防水層端末金物は不要ですが、メタルラスを支持するモルタルハンガーは必要となります。

ILV-1B

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーL	0.2kg
2	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg
3	オールコート立上り用	0.8kg

※動きが想定される下地(S造、ALC等)の場合は立上り入隅部に増貼り(オールコート立上り用1.2~1.3kg/m²+レイヤベスト)が必須です。

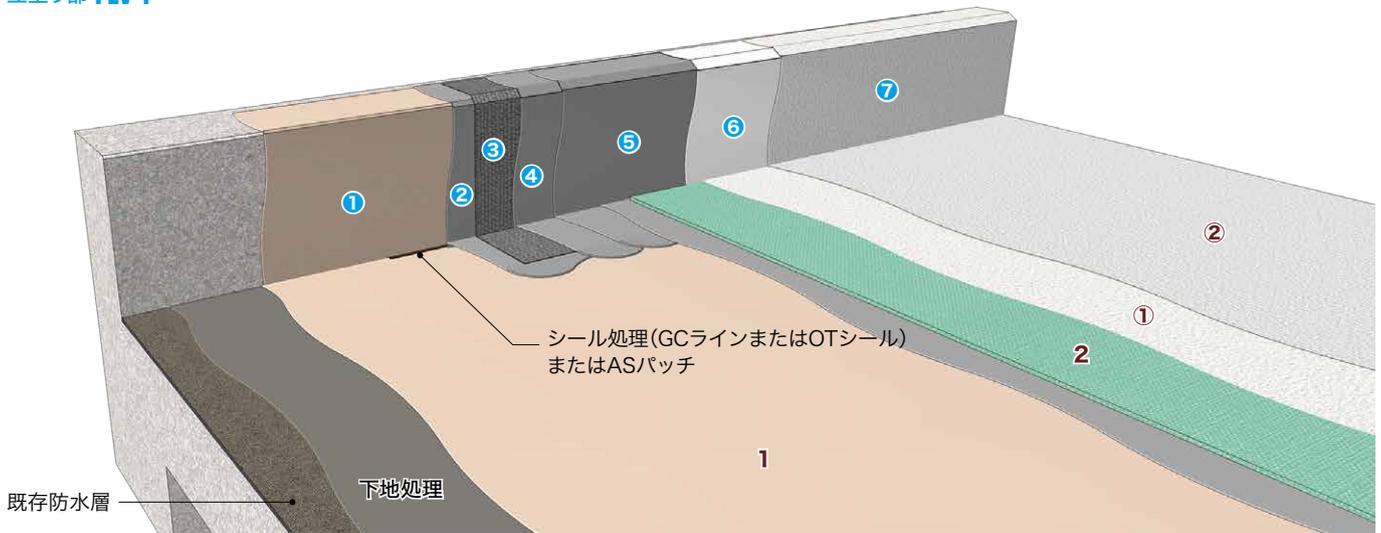
立上り部 注意事項

・立上り部を保護モルタル仕上げとする場合、最終工程に「Pシート」を追加してください。Pシート、メタルラスの価格は別途となります。

・入隅部は塗膜材の流れ込み防止処置として、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/mまたはASパッチのいずれかを選定し、ご使用ください。

FL-1

立上り部 **FLV-T**



平面部

FL-1 非断熱

適正勾配: 1/50~1/20

重量目安: 4.5kg/m²

		(単位:/m ²)	
—	下地処理 クールベース※1	—	
1	OTプライマーA※2	0.2kg	
2	強力フラットA オールコート 塗布貼付	1.3~1.4kg	
①	保護塗料	SPファインカラー 0.2~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
②	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.5kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.15~0.3kg
仕様番号	FL-1・TH	FL-1・SF	FL-1・SD

立上り部※5

FLV-T

		(単位:/m ²)	
①	OTプライマーA	0.2kg	
②	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
③	マットFCII		
④	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	SPベース	0.45kg	
⑦	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg

FLV-1BT

		(単位:/m ²)	
①	OTプライマーA	0.2kg	
②	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg	
		1.2~1.3kg	
③	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
④	マットFCII		
⑤	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑥	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
⑦	SPベース	0.45kg	
⑧	保護塗料	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg
		SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg
		SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg

※2 平面部工程1のOTプライマーAの代わりに水性プライマーLは適用できません

※3 SPサーモコートは2回塗り計です。

※4 SPクリーンカラーの場合、堆積物が予測される部位は、0.7~0.8kg/m²(2回塗り計)が必要です。

※5 立上り既存防水層は原則撤去します。

P19、20共通注意事項

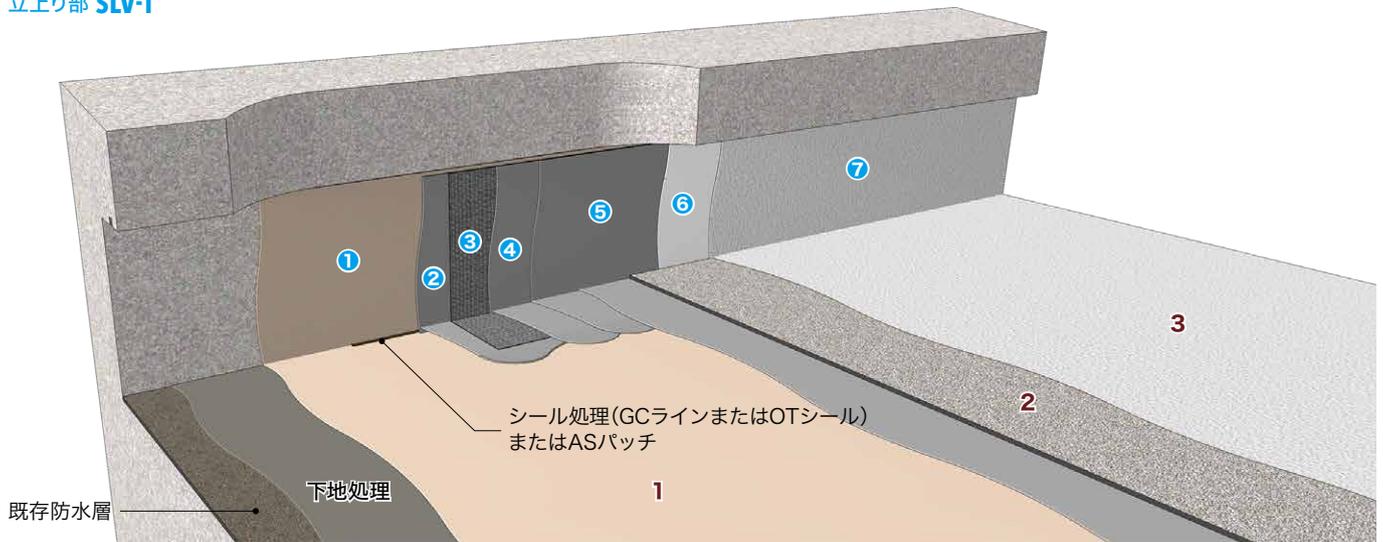
・砂付仕上げの場合、防水層端末金物が必要です。

※1 クールベースの塗布量目安

下地の種別・状態	塗布量 (目安)
砂付ルーフィング下地	1.4~2.0kg/m ²
水溜り部補修など	最大30mm厚まで
不陸調整	1回の最大塗布5mmまで

SL-1

立上り部 SLV-T



平面部

SL-1 非断熱

適正勾配: 1/50~1/20
重量目安: 6.5kg/m²

		(単位: /m ²)			
—	下地処理 クールベース※1	—			
1	OTプライマー-A※2	0.2kg			
2	レイヤキャップ オールコート 塗布貼付	1.3~1.4kg			
3	保護 塗料	SP サーモ コート	SP ファイン カラー	SP ミッド カラー	SP クリーン カラー
		0.8~1.2 kg※3	0.4~0.6 kg	0.5~0.7 kg	0.5~0.6 kg※4

立上り共通注意事項

・入隅部は塗膜材の流れ込み防止処置として、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シーリング材 (GCラインまたはOTシーリング) 約50cc/mまたはASパッチのいずれかを選定し、ご使用ください。

立上り部※5

SLV-T

		(単位: /m ²)	
1	OTプライマー-A	0.2kg	
2	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
3	マットFCII		
4	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
5	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
6	SPベース	0.45kg	
7	保護 塗料	SPサーモ コート	SPファイン カラー
		0.4~0.6kg	0.15~0.3kg
		SPミッド カラー	SPクリーン カラー
		0.2~0.3kg	0.2~0.3kg

SLV-T 砂付

		(単位: /m ²)	
6	OTプライマー-A	0.2kg	
7	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
8	保護 塗料	SP サーモ コート	SP ファイン カラー
		0.4~0.6 kg	0.4~0.6 kg
		SP ミッド カラー	SP クリーン カラー
		0.5~0.7 kg	0.5~0.6 kg※4

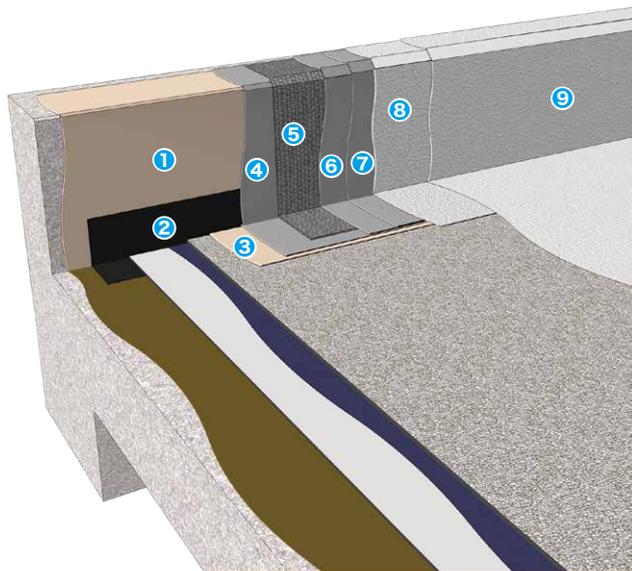
SLV-1BT

		(単位: /m ²)	
1	OTプライマー-A	0.2kg	
2	レイヤベスト オールコート立上り用 塗布貼付	1.2~1.3kg	
3	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
4	マットFCII		
5	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
6	オールコート立上り用	1.2~1.3kg	
7	SPベース	0.45kg	
8	保護 塗料	SP サーモ コート	SP ファイン カラー
		0.4~0.6 kg	0.15~0.3 kg
		SP ミッド カラー	SP クリーン カラー
		0.2~0.3 kg	0.2~0.3 kg※4

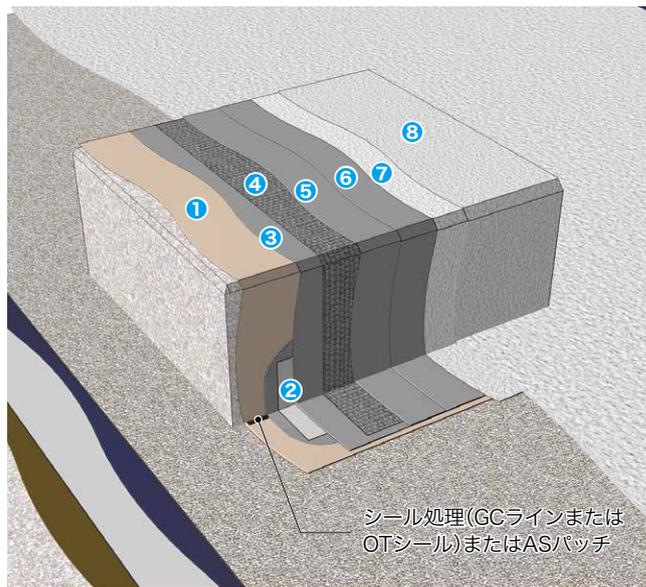
SLV-1B 砂付

		(単位: /m ²)	
3	オールコート立上り用	0.8kg	
4	OTプライマー-A	0.2kg	
5	新強力エコフィットC(端部GCライン)		
6	保護 塗料	SPサーモ コート※3	SPファイン カラー
		0.8~1.2kg	0.4~0.6kg
		SPミッド カラー	SPミッド カラー
		0.5~0.7kg	

狭隘部・複雑部位・架台廻り等 一立上り塗膜仕上げ



平面部：熱工法・BANKS・エコフィット工法・プライマス工法との複合仕様



平面部：熱工法 SX 仕様との組合せ例

SLV-F 先増貼り

		(単位:/m ²)		
①	OTプライマーA	0.2kg	先増貼りの位置とサイズ	
②	増貼り ASパッチ			
—	平面部防水層施工			
③	OTプライマーA (平面取合い部)	0.2kg		
④	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
⑤	マットFCII			
⑥	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
⑦	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
⑧	SPベース	0.45kg		
⑨	保護塗料			
	SPサーモコート	0.4~0.6kg		
	SPファインカラー	0.15~0.3kg		
	SPミッドカラー	0.2~0.3kg		
	SPクリーンカラー	0.2~0.3kg		
仕様番号	SLV-F・TH	SLV-F・SF	SLV-F・SD	SLV-F・SC

SLV-F 後増貼り

		(単位:/m ²)		
—	平面部防水層施工		後増貼りの位置とサイズ	
①	OTプライマーA 平面取合い部を含む	0.2kg		
②	増貼り オールコート 立上り用 +レイヤベスト	1.2~1.3kg		
③	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
④	マットFCII			
⑤	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
⑥	オールコート 立上り用	1.2~1.3kg		
⑦	SPベース	0.45kg		
⑧	保護塗料			
	SPサーモコート	0.4~0.6kg		
	SPファインカラー	0.15~0.3kg		
	SPミッドカラー	0.2~0.3kg		
	SPクリーンカラー	0.2~0.3kg		
仕様番号	SLV-F・TH	SLV-F・SF	SLV-F・SD	SLV-F・SC

※工程②をオールコート立上り用(1.2~1.3kg/m²)/マットFCII/オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m²)に代えることができます。

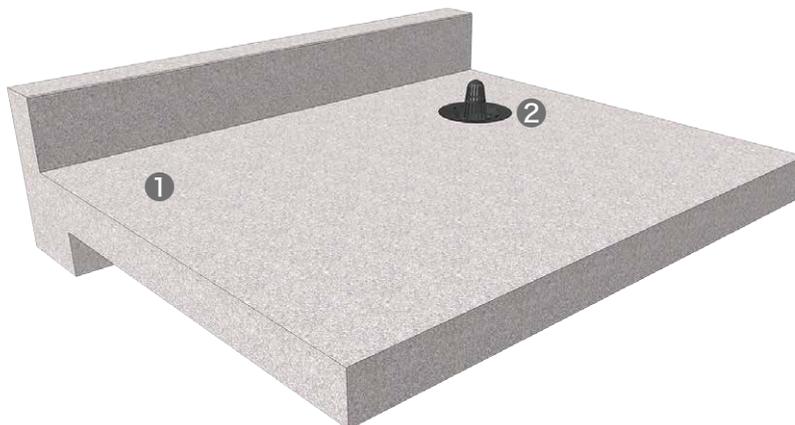
注意事項

- ・取り合いについては別途資料がございますのでお問い合わせください。
- ・入隅部は塗膜材の流れ込み防止処置として、隙間や凹凸など現場状況に応じて、シール材(GCラインまたはOTシール)約50cc/mまたはASパッチのいずれかを選定し、ご使用ください。

※工程①のOTプライマーAの代わりに水性プライマーLは適用できません

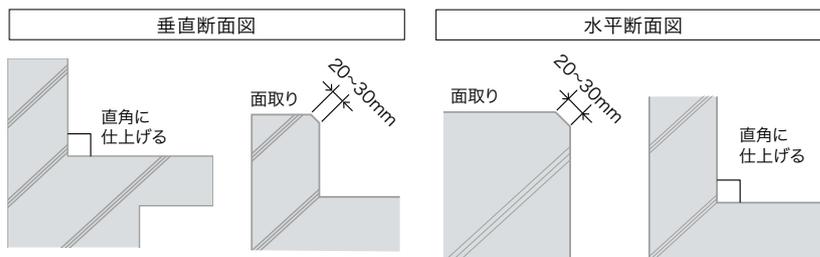
新築仕様の下地ごしらえについて

鉄筋コンクリートのスラブ



① 出入隅形状

- 垂直断面入隅はいずれも直角に仕上げる。
出隅は20～30mmの面を取る。
- 水平断面立上部の入隅は直角、立上部の出隅は20～30mmの面を取る。



② ドレン、オーバーフロー管

- ルーフドレンの排水分担面積は十分に余裕を持たせる。
- ドレンはJCW-301 (日本鑄鉄ふた・排水器具工業会規格)の、「ろく屋根用たて形1型・横形1型」に適合するものを推奨する。
- ドレンは打込みタイプとし、防水層の厚みを考慮して必ず周囲より低めに取付ける。(30～50mm程度)
- ドレンと立上りとの間隔は十分にとって(200mm程度)、防水施工がしやすいようにする。
- 設置数はSHASE-S206 (給排水衛生基準)の「雨水排水管径の決定」を参考とする。
- 小面積であっても不慮の排水不良を想定して2個以上設置するか、もしくはオーバーフロー管の設置が望ましい。
- オーバーフロー管は防水層の貼りかけ代のある専用部材とする。

ALCパネル

- 目地に段差が生じないよう堅固に取り付ける。
- 吸水しやすく、十分な乾燥が期待できないので注意を要する。
- 目地部に充填したモルタルの表面は平坦で浮きや剥離のないこと。
- 梁上の短辺ジョイント部には、種々の要因によるムーブメントが想定されるため、必要に応じて絶縁処理や増貼りを行う。
(ALCの線膨張係数は $7 \times 10^{-6}/^{\circ}\text{C}$ である)

PCa板

- 目地に段差が生じないよう堅固に取り付ける。
- 目地部に充填したモルタルの表面は平坦で浮きや剥離のないこと。
- 板相互の突付のジョイント部にムーブメントが想定されるため、必要に応じて絶縁処理や増貼りを行う。
(コンクリートの線膨張係数は $10 \times 10^{-6}/^{\circ}\text{C}$ である)

改修仕様の下地処理について

かぶせ改修においては、下地処理を確実・丁寧に行う必要があります。

適切な下地処理が行われていない場合、新規防水層との接着力を十分に確保できず、施工後に剥離などの不具合が生じる恐れがあります。下地処理の成否が、工事の成果を左右すると言っても過言ではありません。

さらに改修工事ではさまざまな下地条件があり、それぞれに適した下地処理材を選定することが大切です。適切な下地処理には下地との相性が良い、改修目的に合ったものにするのが決め手になります。



クールベース



アスグランド



リグレイ・ネオ

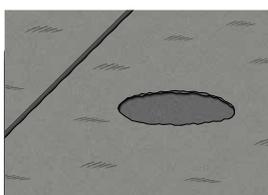
下地処理材

液状の下地処理材。1液性のタイプや、主剤と硬化剤を混合攪拌する2液性反応硬化型タイプ、あるいは樹脂とパウダーを混合するポリマーセメントモルタルタイプなどがあり、硬化するまで所定の時間を要します。

既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時的な止水に用いる仮防水材（アスグランド・マルチグランド）などもあります。

かぶせ改修の 下地処理イメージ

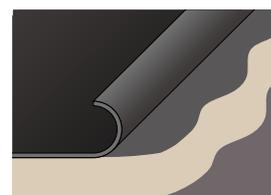
○クールベース〈水性ゴムアスファルト系下地調整材〉



既存露出防水層
(砂付ルーフィング)



下地調整材「クールベース」塗布

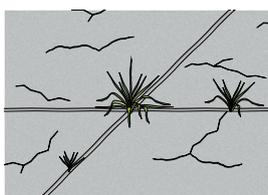


クールベース乾燥後、OTプライマーA
+オールコート+ルーフィング

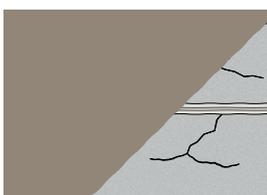
既存保護コンクリート 下地処理イメージ

○リグレイ・ネオ〈SBR系ポリマーセメントモルタル〉

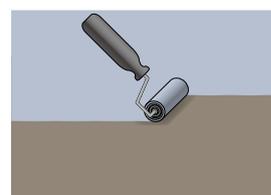
○リグレイエボ〈水性エポキシ系下地調整材〉



既存保護コンクリート



ポリマーセメント「リグレイ・ネオ」塗布



プライマー塗布

「かぶせ改修用下地処理材」

水性ゴムアスファルト系下地調整材【クールベース】

荒れた既存アスファルト防水層の断面修復や水溜り不陸調整、砂付面処理にいたるまで、アスファルト関連下地の改修に力を発揮します。プライマーを塗布することなく、新規アスファルト防水層の直接施工が可能です

適用下地

既存露出アスファルト防水面・既存アスファルトシングル面・水溜り部の補修や防水撤去後段差の修正部分



標準使用量

砂付ルーフィング下地 ……………1.4~2.0kg/m²
 水溜り部補修など ……………最大30mm厚まで
 不陸調整 ……………1回の最大塗布5mmまで

配合重量比

クールベース クールベースパウダー 5号珪砂

1 : 2 + [2.4~3.0] ※1

※オールコートを施工する場合は、OTプライマー-A(0.2kg/m²)を塗布します。
 ※クールベース(混和液)1缶に対し、クールベースパウダー1袋で1セットとなります。小分けする場合は上記の通りの配合(重量比)となります。
 ※1 勾配調整には、5号珪砂を加えた配合(重量比 2.4~3.0)が適しています。

水性ゴムアスファルト系仮防水材【アスグランド】

「アスグランド」は、既存防水層撤去後の雨養生となる仮防水材です。下地追従性と立上り部の施工性に優れています。既存防水層を撤去し、アスグランドを施工した後、アスファルト系防水の施工が可能です。

適用下地

防水層撤去後のコンクリート下地等



標準使用量

・しごき塗り …………… 0.4kg/m²
 ・本塗り …………… 1.0kg/m²

※アスグランド1缶に対し、グランドパウダー1袋で1セット(目安約15m²分、配合物比重1.4)となります。小分けする場合は、その配合重量比となります。(配合重量比3:4)
 ※オールコートを施工する場合は、水性プライマー-L(0.2kg/m²)、または OTプライマー-A(0.2kg/m²)を塗布します。

SBR系ポリマーセメントモルタル【リグレー・ネオ】

コンクリート下地等によく接着し、広い範囲で使用されるポリマーセメントモルタルです。モルタル中に樹脂皮膜が形成されるため水分が早期蒸発せず、ドライアウトを起こしにくく施工後の亀裂の発生を抑えます。防湿、耐水性、耐衝撃性、耐薬品性に優れています。

適用下地

コンクリート下地
 モルタル下地



配合重量比

配合比率……混和液:水:パウダー 【注意】リグレー・ネオに水を添加しないでください。

■薄塗り用(下地調整など)

リグレー・ネオ(混和液) パウダー薄塗り用 配合物比重

4kg : 9kg 1.8

■厚塗り用(不陸水たまり調整など)

リグレー・ネオ(混和液) パウダー厚塗り用 配合物比重

4kg : 20kg 2.0

屋内でも安心安全

アスレイヤ水性工法

水性材料を使用しているので 屋内防水工事にマッチします

水性主体の材料なので、屋内での使用にマッチした材料です。

反応タイプの硬化剤を用いたことで、通常の水性塗膜材に比べ速く硬化し、工期を短縮します。

アスレイヤ
水性工法
施工イメージ



技術審査証明取得

「アスレイヤ水性工法」の仕様において、公共建築工事標準仕様書と同等の性能を有するとして（一財）日本建築センターより、技術審査証明（建築技術）を取得しています。



種別	公共建築工事 標準仕様書	アスレイヤ水性工法
屋内防水	E-1	IE-1
	E-2	IE-1

温度状況によって3つの硬化剤を選択可能

反応硬化を利用することで通常の水性塗膜材より工程を短縮。

環境や温度状況によって3つの硬化剤を選択します。

硬化剤	速硬化			標準			夏用		
	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃
可使時間	40分	20分	5分	180分	35分	15分	—	120分	40分
硬化時間※	12時間	5時間	5時間	24時間	6時間	5時間	—	18時間	5.5時間

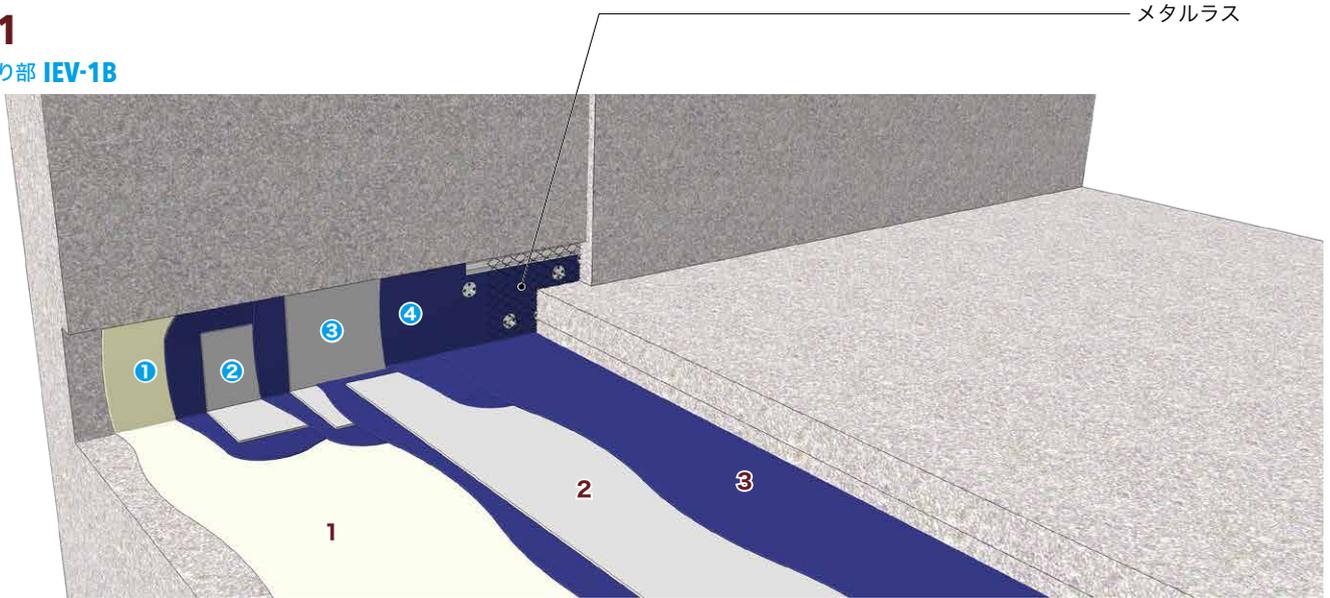
※2kg/m²を施工した場合。

アスレイヤ水性工法 仕様番号の見方

I	E	V	-	1	B
適用部位	工法	-	積層数	-	
I: 屋内・保護仕上げ	E: アスレイヤ水性工法	なし: 平面部 V: 立上り部	1: 1層		【平面部】 なし 【立上り部】 B: レイヤソフト仕様 H: マットFCII仕様

IE-1

立上り部 IEV-1B



平面部

IE-1

重量目安:4.5kg/m²

技術審査証明:E-1、2仕様対応

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーC 5倍液	0.2kg
2	レイヤソフト レイヤコート水性 塗布貼付	1.5kg
3	レイヤコート水性	1.5kg

立上り部

IEV-1B

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーC 5倍液	0.2kg
2	コーナー増貼り レイヤコート水性 立上り配合 +レイヤソフト	1.5kg
3	レイヤソフト レイヤコート水性 立上り配合 塗布貼付	1.5kg
4	レイヤコート水性 立上り配合	1.5kg

IEV-1H

立上りが高い場合や、曲面など複雑形状時

		(単位:/m ²)
1	水性プライマーC 5倍液	0.2kg
2	コーナー増貼り レイヤコート水性 立上り配合 +レイヤソフト	1.5kg
3	レイヤコート水性 立上り配合	0.8kg
4	マットFC II	
5	レイヤコート水性 立上り配合	1.2kg
6	レイヤコート水性 立上り配合	1.5kg

立上り部の材料は変更可能

仕様番号	工程	変更可能な材料
IEV-1B	2	レイヤコート水性 立上り配合 0.8kg/m ² +マットFC II
IEV-1H	2	+レイヤコート水性 立上り配合 1.2kg/m ²

立上り注意事項

- ・E-2仕様対応とする場合は、立上り工程②を省略します(IEV-1B/IEV-1H)。
- ・メタルラスの価格は別途になります。

技術資料（レイヤオール工法）

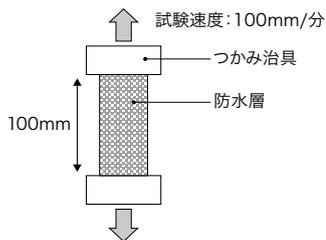
平面部防水層機械的強度

試験体を引張試験機に取り付け、速度100mm/分で試験片が破断するまで引張ります。最大荷重および破断時の変位量から、抗張積*、引張り強さ、伸び率を計算します。 ※抗張積:防水層の引張り強さ(N)と最大荷重時の伸び率(%)の積で求められる、防水層の破断に要するエネルギーを表す数値。

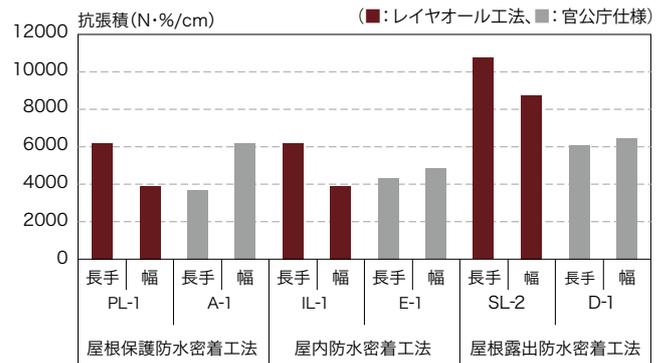
■引張試験

試験条件: JIS A 6013に準拠 試験体形状: 長さ200mm、幅50mm

試験速度: 100mm/分 試験温度: 20°C



【防水層機械的強度の比較】



レイヤオール工法はシートと塗膜材を併用することで、公共建築工事標準仕様と同等以上の抗張積を確保しています。

立上り部防水層機械的強度

平面部防水層機械的強度の試験と同様の試験を行い抗張積、引張り強さ、伸び率の算出します。また、厳しい動きを示す下地の挙動に対して十分な耐久性を有しているかを確認するため、防水層の耐疲労性、下地亀裂への追従性を有しているかを疲労試験により算出します。

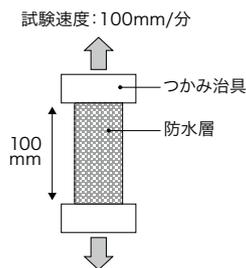
■引張試験

試験条件: JIS A 6013に準拠

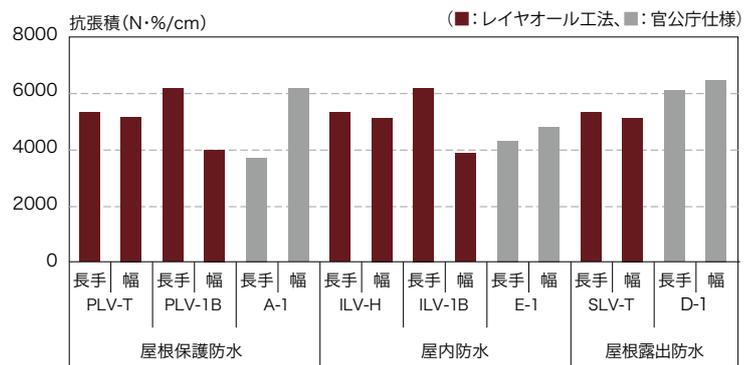
試験体形状: 長さ200mm、幅50mm

試験速度: 100mm/分

試験温度: 20°C



【防水層機械的強度の比較】



【耐疲労区分】

疲労試験詳細は p.30をご参照ください。

仕様	屋根保護防水			屋内防水			屋根露出防水	
	PLV-T	PLV-1B	A-1	ILV-H	ILV-1B	E-1	SLV-T	D-1
評価区分	4	4	3	4	4	3	4	4

レイヤオール工法の立上り部仕様は公共建築工事標準仕様と同等または同等以上の性能を確保しています



オールコートの耐候性

砂付ルーフィングをオールコート、および工事用3種アスファルトで貼り付けた試験体を、促進老化試験機(キセノンウェザーメーター)に入れ、ラップはみ出し部の塗膜上の劣化後の外観を観察。

■劣化条件

キセノンウェザーメーター(スガ試験機)、
BP温度=63°C、120分の中100分ランプ照射、
20分水噴霧。
※下は168時間後の状態

	オールコート(平面部用)	防水工事用3種アスファルト
保護塗料塗布		
保護塗料無し		



オールコートは防水工事用3種アスファルトと比較して、良好な結果を示しました。

オールコートの耐久性

ダンベル状の試験体を引張試験機に取り付け、速度500mm/分で試験片が破断するまで引張ります。

最大荷重および破断時の変位置、破断時の標線間距離から、引張強さ、各伸び率を求め、80°C養生処理実施後、60°Cアルカリ温水処理後、それぞれ初期値との差を比較しました。 ※値は初期比%

■ダンベル引張試験

試験条件: JIS A 6021に準拠

試験体形状: ダンベル2号(幅5mm、厚み2mm)

試験速度: 500mm/分 試験温度: 20°C n=3



80°C養生	平面部用				立上り用			
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	89	95	100	100	100	107	108
標線間の伸び保持率(%)	100	101	106	110	100	115	114	120

60°Cアルカリ温水	平面部用				立上り用			
処理日数	0日	10日	30日	60日	0日	10日	30日	60日
引張強さ保持率(%)	100	103	131	100	100	114	120	104
標線間の伸び保持率(%)	100	119	146	110	100	117	125	131



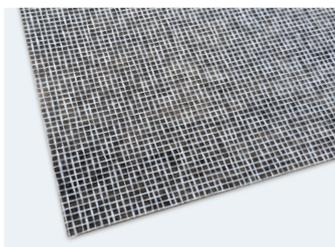
オールコートは各劣化処理においても、初期比約90%以上の耐久性を維持しています。

立上り、局所部位用補強布「マットFCII」

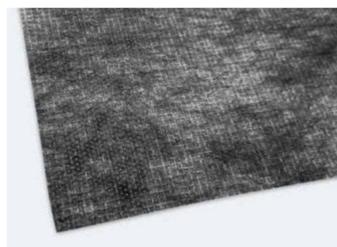
マットFCIIは、厚手のポリエステル繊維の織布と目付けの低い不織布のラミネート構成であり、現場塗布時の塗布量を増加させることで、膜厚確保を簡易化する特長があります。

優れた施工性

メッシュ/不織布構造により、施工時におけるメッシュの“ほつれ”を軽減し、ゴムベラでの作業性を向上しています。また、目視確認により転圧の有無が確認でき空隙やエア溜りを防ぎます。

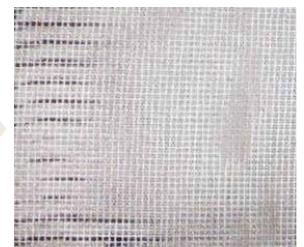


マットFCII 表(メッシュ側)



マットFCII 裏(不織布側)

白色のメッシュと黒色の不織布で色分けすることにより、転圧後に下塗り塗膜が密着している部分はグレー色に変色するため施工管理が容易です。



筋状の黒色部分は空隙やエア溜りがある部分

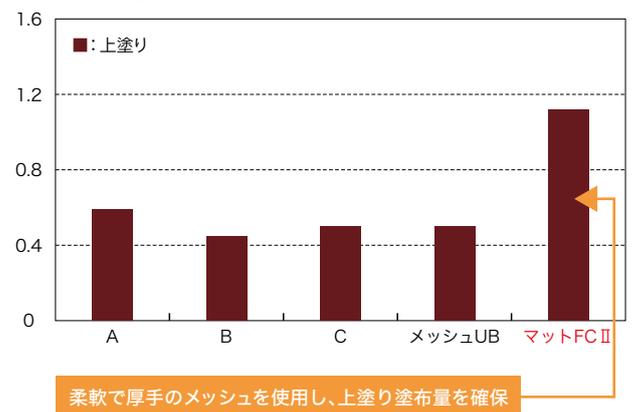
塗膜厚管理を簡略化

汎用の補強布に比べてマットFCIIを使用することで塗膜厚管理が簡便化します。

【ウレタン防水に使用されている各種補強布との比較】(他社品も含む)

補強布	形状	材質	重量(g/m ²)	厚み(mm)
A	織布	ポリエステル繊維	54	0.36
B	織布	ビニロン繊維 自己癒着タイプ	44	0.38
C	織布	ポリエステル・ ナイロン芯鞘構造	30	0.3
メッシュUB	織布	ガラス繊維	45	1.02
マットFCII	織布 / 不織布	ポリエステル繊維 / ポリエステル繊維	124	1.02

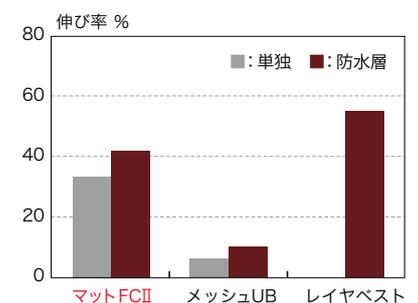
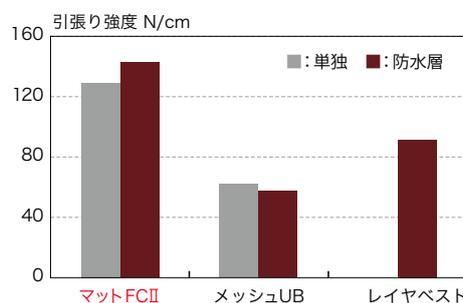
厚さ(mm) 【補強布の表面を覆い隠すまでの塗膜材を塗布した時の厚さ】



優れた機械的強度

マットFCIIは引張り強度および伸び率に優れており、レイヤオール工法で使用されているレイヤベストと比べても遜色ない値を示しています。

(引張試験: JIS A 6013に準拠)



防水層の疲労試験

防水層の性能は厳しい動きを示す下地の挙動に対して、十分な耐久性を有している必要があります。

マットFCⅡの補強効果により、下地亀裂部に発生する応力を防水層周囲に分散し、その破断を防止します。

■試験方法

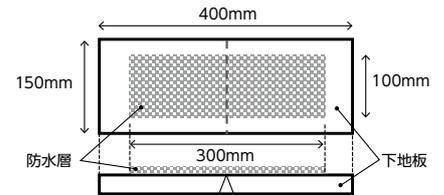
疲労試験(JASS8 T-501-2014「メンブレン防水層の性能評価試験表」繰り返し疲労試験に準拠)

サイクル条件:1ステップ(=1ムーブ3分/周期×500回)×9ステップ

試験工程:下工程表に沿って実施

評価方法:試験終了後、亀裂幅を5.0mmに拡大した状態で防水層に破断発生の有無を確認する。

※破断とは、表から裏に貫通する穴が発生した場合を指します。



【試験工程】

ステップ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
温度(°C)	20	60	-10	20	60	-10	20	60	-10
ムーブメント(mm)	0.5 ↔ 1.0			1.0 ↔ 2.0			2.5 ↔ 5.0		

評価区分

疲労A1	工程1で1体でも破断
疲労A2	工程2で1体でも破断
疲労A3	工程3で1体でも破断
疲労A4	工程3で3体とも破断しない

【評価結果】

試験体	仕様		評価区分
	オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m ²) + マットFCⅡ + オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m ²) + オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m ²)		4 (工程3で3体とも破断しない)
	立上り部該当仕様 PLV-T、PLV-H、FLV-T、SLV-T、ILV-H		
	オールコート(1.2~1.3kg/m ²) + レイヤベスト + オールコート(0.8kg/m ²)	オールコート立上り用(1.2~1.3kg/m ²) + レイヤベスト + オールコート立上り用(0.8kg/m ²)	4 (工程3で3体とも破断しない)
	平面部該当仕様 PL-1、IL-1	立上り部該当仕様 PLV-1B、ILV-1B	
	レイヤコート水性立上り配合(0.8kg/m ²) + マットFCⅡ + レイヤコート水性立上り配合(1.2kg/m ²) + レイヤコート水性立上り配合(1.5kg/m ²)		4 (工程3で3体とも破断しない)
	該当仕様 IEV-1H		
	レイヤコート水性(1.5kg/m ²) + レイヤソフト + レイヤコート水性(1.5kg/m ²)	レイヤコート水性立上り配合(1.5kg/m ²) + レイヤソフト + レイヤコート水性立上り配合(1.5kg/m ²)	4 (工程3で3体とも破断しない)
	平面部該当仕様 IE-1	立上り部該当仕様 IEV-1B	



マットFCⅡとレイヤベストの補強効果により、高い繰り返し追従性能を有しています。

屋根の防火性能

建物には耐火性能と防火性能が求められます。防火に関して建築基準法では、火災発生時の火の粉などによる周囲への延焼被害を防ぐため、防火関連法規（地域・屋根の構造・屋根材の規定など）を定めています。

防火と耐火の違い

屋根の防火性能（外側からの火）

近隣の火災による火の粉などにより、炎が室内に達する様な亀裂や燃え抜けが生じないこと。
延焼の恐れがある火災が生じないこと。



耐火性能（内側からの火）

当該建物内で発生した火災を一定時間外部に出さないこと。
その建物が倒壊しないこと。



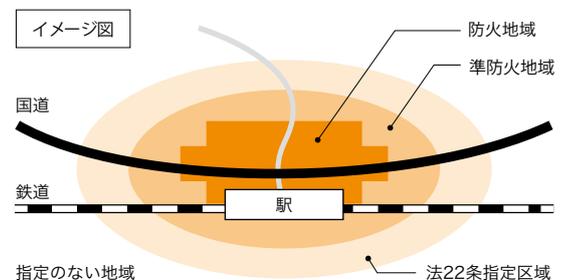
屋根に防火性能が必要な地区

○防火地域、準防火地域 ○法22条指定区域

（大規模な木造建築の場合も屋根に防火性能が求められます：建築基準法25条）

地域の区分

防火地域（建築基準法61条）、準防火地域（建築基準法62条）は都市計画法によって市街地における火災の危険を防ぐために指定した地域です。法22条指定区域は特定行政庁が防火地域、準防火地域以外の市街地について指定した地域です。



防火性能を有する屋根構造

建築基準法63条、22条に基づき、建築物の屋根構造を定めています。具体的には以下の構造とします。

A: 平12年建設省告示第1365号の構造

- 屋根が耐火構造で、勾配が30度以内であること
- 断熱材の厚さの合計が50mm以下であること
- アスファルト防水工法であること

※ 最表面を不燃材で覆っている場合は、下地や傾斜に関係なく防火地域、準防火地域、法22条指定区域内の建物に施工できます。

B: 国土交通大臣の認定を受けた構造



屋根の防火（飛び火）性能試験風景

本仕様書掲載仕様の防火認定番号（下地がコンクリート、ALCパネル、PCa板の場合）

認定番号	DR-1960(2) -SPサーモコート仕上げ-
仕様番号	SL-2G・TH/2GF・TH FL-2G・TH/2GF・TH※1

※木造を含む認定番号の詳細については、田島ルーフィングのホームページ(<https://tajima.jp>)をご覧ください。
※1 SPサーモコートの塗布量が標準仕様と異なります。0.8kg/m²（2回合計塗布量）が必要です。

技術審査証明

技術審査証明とは「建設技術審査証明事業（建築技術）」は、平成13年まで建設大臣告示に基づいて建設大臣から認定を受けて14の公益法人が行ってきた「民間開発建設技術の技術審査証明・証明事業」の実績をふまえて、建設技術審査証明協議会が創設した事業です。

この事業は、建築物等に用いられる各種技術（設計、材料、部材、構法、施工、検査、保全、改修、解体等）に関し、民間で開発された様々な新しい技術について審査・証明を行うことで、民間における研究開発の促進と、それらの新技術を建設事業に適正かつ迅速に導入することを図り、建築技術水準の向上に寄与する目的で実施されています。



レイヤオール工法
BCJ-審査証明-269



アスレイヤ水性工法
BCJ-審査証明-257

3条確認

瑕疵担保履行法の施行により2009年から、新築住宅を引き渡すときは、建設業者（または宅地建物取引業者）が「保険に入る」か「保証金の供託を行う」かのどちらかが必要になりました。

これに関連する各保険法人は、保険対象となる条件をまとめた「設計施工基準」を作成しています。

この設計施工基準の第3条に、「本基準と同等と認めた場合は他の防水でも可とする」という内容の記載があり、申請して認められた場合は、その他の防水が可能になります。

申請の仕方は、建物ごとに行う個別申請と、各メーカーが独自の仕様で申請する包括申請があります。

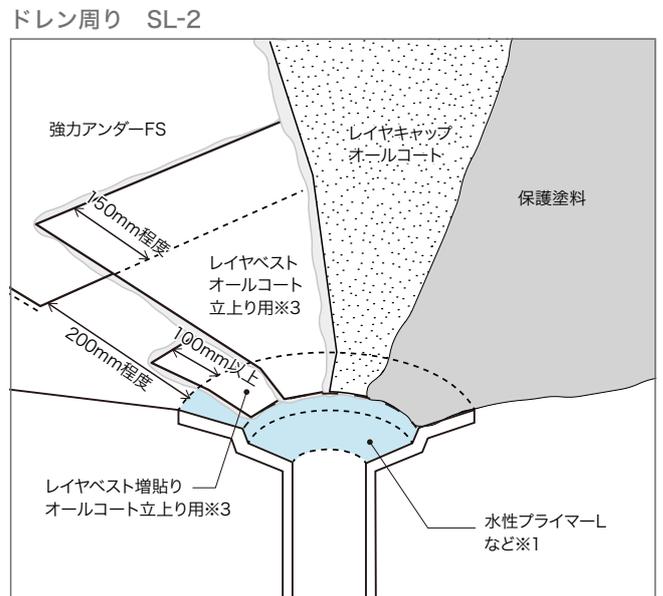
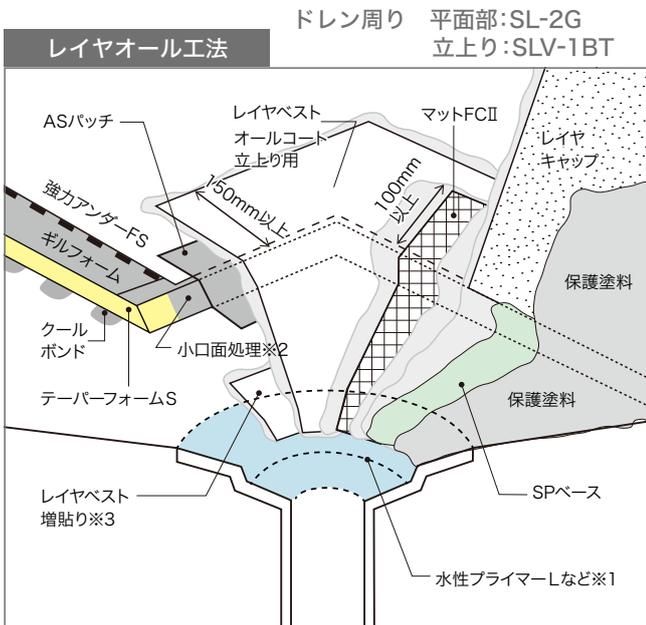
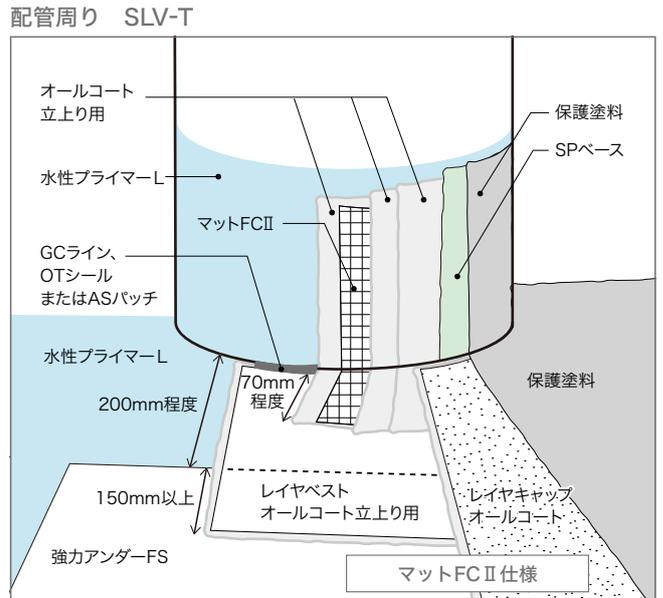
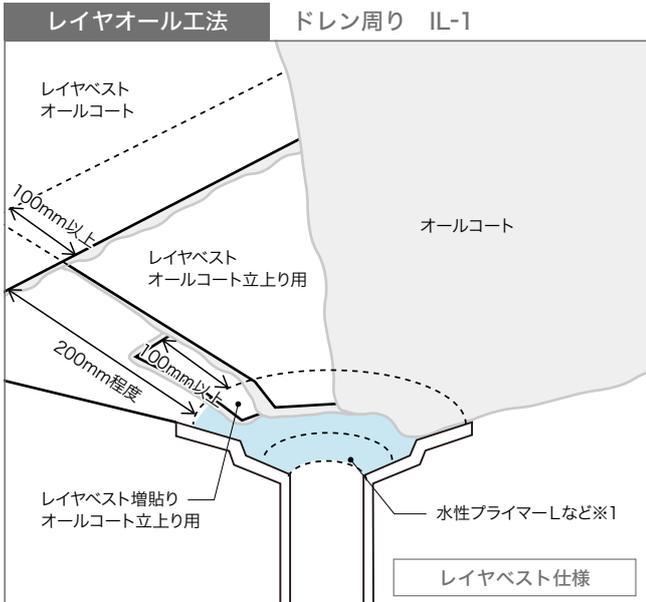
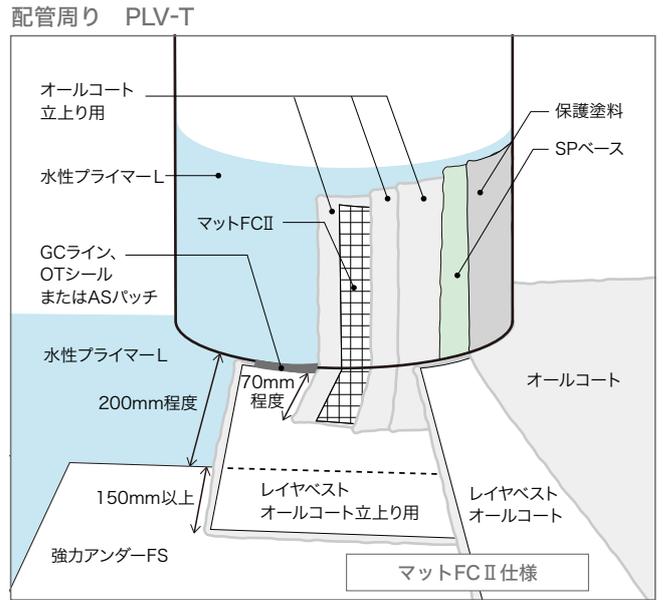
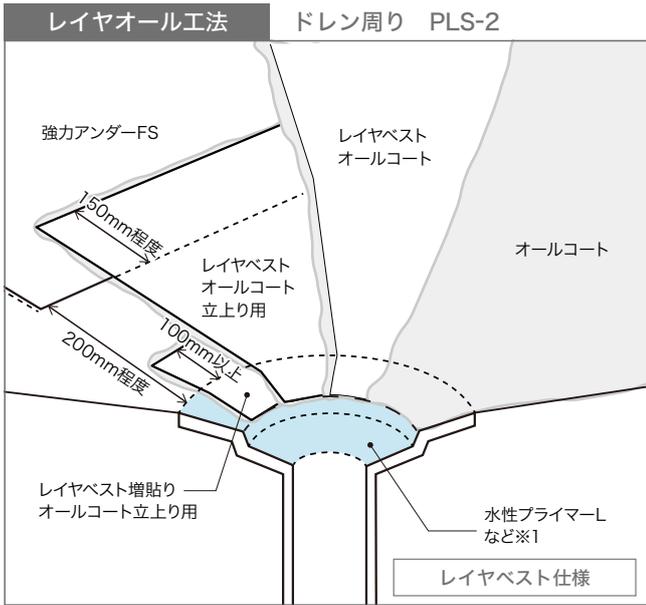
「包括3条確認書」は、「メーカー仕様が設計施工基準と同等であり保険対象となります」ということを保険会社に認めてもらった確認書といえます。

【東西アスの防水仕様について】

東西アスの防水仕様は設計施工基準に合致または包括3条確認を行ったものとなりますので、現場ごとの個別申請は不要です。

※保険法人によって保険の申請・運用方法などが異なります。また防水仕様によっては適用しない場合がありますので、詳細は弊社営業員までお問合せください。

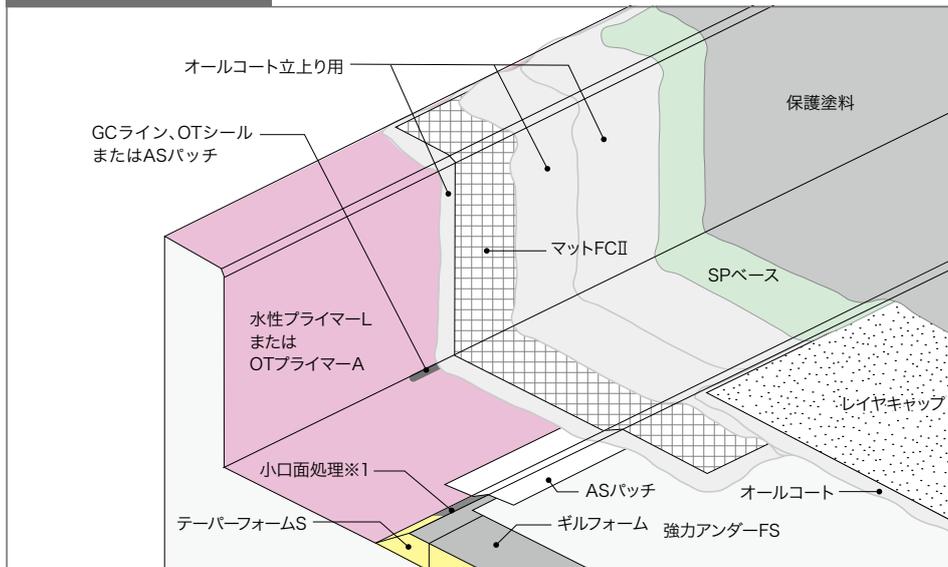
納まり図例



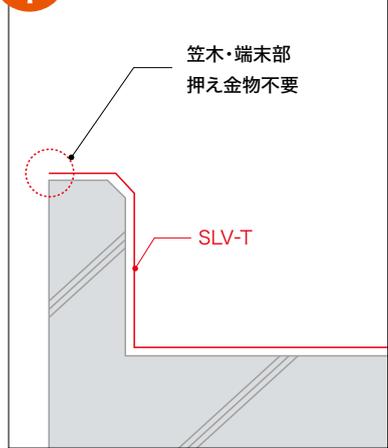
※1 水性プライマーLの他にプライマーBPまたはKYプライマーエポ金属用が適用可能です。 ※2 クールボンド等使用
※3 レイヤベストに代えて「オールコート立上り用1.2~1.3kg/m²+マットFCII+オールコート立上り用1.2~1.3kg/m²」にすることもできます。



レイヤオール工法 側溝部:SL-2G 立上り部:SLV-T



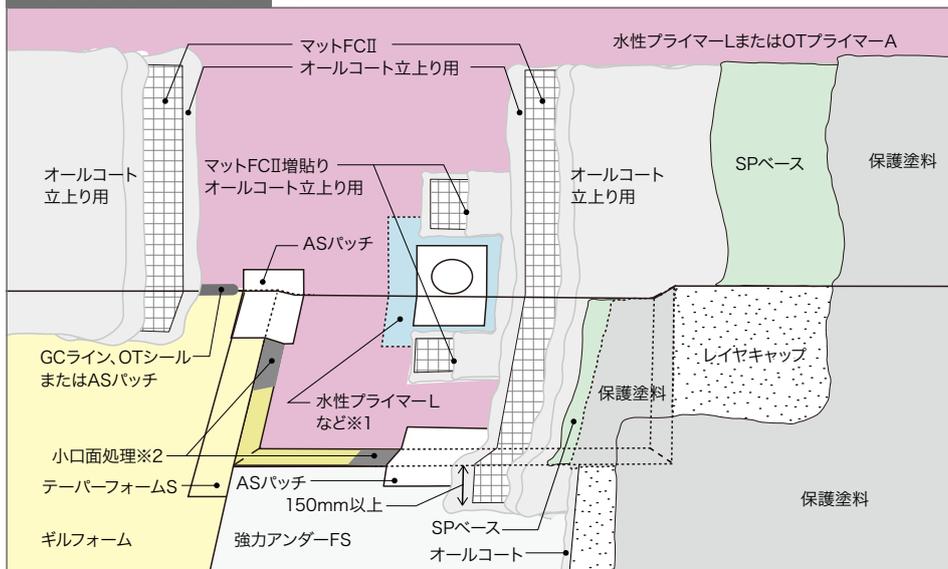
point 1 納まりワンポイント【パラペット】



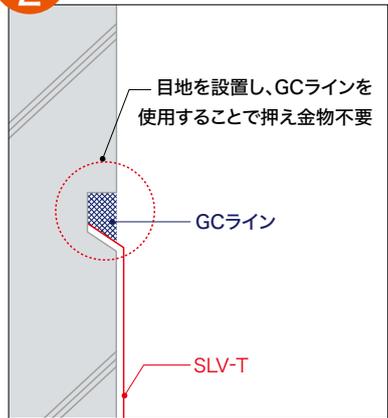
※1 クールボンド等使用

マットFC II仕様

レイヤオール工法 横ドレン SLV-T

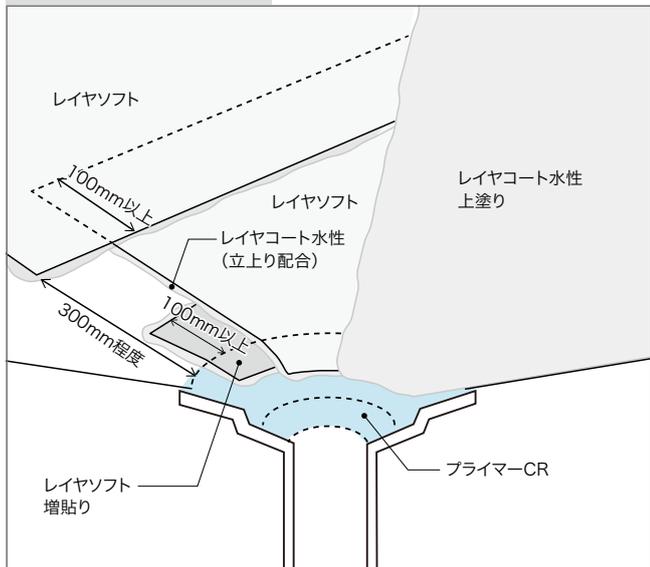


point 2 納まりワンポイント【立上り】

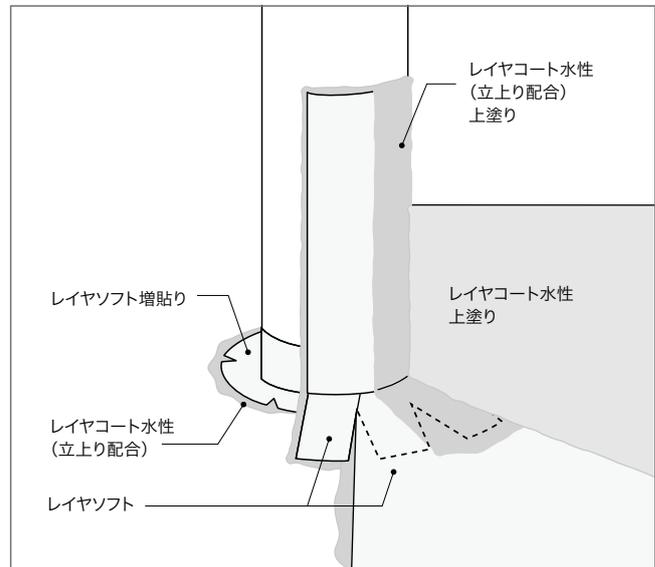


※1 水性プライマーLの他にプライマーBPまたはKYプライマーエボ金属用が適用可能です。
 ※2 クールボンド等使用

アスレイヤ水性工法 ドレン周り IE-1



配管周り IEV-1B



材料紹介

適用工法: レイヤオール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

オールコート



常温反応型改質アスファルト塗膜材(平面部用)。

20kgセット
(共通A剤: 5kg/缶 B剤: 15kg/缶)

オールコート立上り用



常温反応型改質アスファルト塗膜材(立上り部用)。

20kgセット
(共通A剤: 5kg/缶 立上り用B剤: 15kg/缶)

レイヤコート水性



水性タイプの改質アスファルト塗膜材。
水系硬化剤とセットで使用。
立上りはビル増粘剤を加えた3液配合で使用する。

17kg/缶

水系硬化剤



レイヤコート水性用硬化剤。標準・速硬化・夏用の3タイプがある。

各0.3kg/缶×4缶/箱

アスレイヤ硬化促進剤



オールコート用の硬化促進剤。
最大添加可能量: 1%

6kg/缶

アスレイヤ減粘剤



オールコート用の減粘剤。
最大添加可能量: 5%
※ルーフィング貼付工程においての使用は不可。

6kg/缶

OTプライマーA



ウレタン系プライマー。

16kg/缶

ビル増粘剤



レイヤコート水性用立上り用添加剤。

5kg/缶

プライマーCR



レイヤコート水性向けの金属部用溶剤系プライマー。

3kg/缶

水性プライマーL



オールコートや各種金属下地との接着が良好な、
アクリル系水性プライマー。F☆☆☆☆取得。

18kg/缶
※下地種類により、塗布時にハジキが見られる場合は乾燥後塗り重ねる。

水性プライマーAS



アスファルト系水性プライマー。

17kg/缶

プライマーBP



オールコート向けの金属部用ウレタン系プライマー。

0.45kg/缶
※有機則該当品

適用工法：レイヤオール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

水性プライマーMS



セメントMS施工時に使用するアクリル水性プライマー。

18kg/缶

水性プライマーC



アスレイヤ水性用のアクリル系水性プライマー。

18kg/缶

速硬化OTプライマーMブルー



塗布部分が識別しやすいよう青色に着色された速乾性の仲介プライマー。

8kg/缶

強力アンダーF



レイヤオール工法用の全面粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.5mm

強力アンダーFS



レイヤオール工法用の、ストライプ状粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×16m
厚さ：1.0mm (厚みには粘着層含まず)

新強力エコフィットC



裏面に粘着層タイプの砂付改質アスファルトルーフィング。

1m×8m
厚さ：2.9mm

強力フラットA



表層を金属箔積層繊維面材で仕上げた非砂付タイプ改質アスファルトルーフィング。レイヤオール工法に使用する。緑色面を表側にして施工する。

1m×8m 厚さ：1.8mm

レイヤベスト



薄く柔軟性に優れた改質アスファルトシート。裏面は不織布。レイヤオール工法専用。

1m×20m
(カット品：200mm×20m)
厚さ：1.0mm

レイヤソフト



薄く柔軟性に優れた改質アスファルトシート。裏面は鉱物質粉粒。アスレイヤ水性工法専用。

1m×20m
(カット品：200mm×20m)
厚さ：1.0mm

レイヤキャップ



表面を砕石砂で仕上げた露出防水用改質アスファルトシート。

1m×8m

マットFC II



表面のメッシュを埋める要領で塗膜材を塗布する立上り用補強布。裏面は不織布仕上げ。

1,050mm×50m
(カット品：200mm×50m)

ダンパーシート



両面に粘着層を設けた、露出断熱防水用の防湿シート。

1m×32m
厚さ：0.8mm (厚みには粘着層含む)

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

材料紹介

適用工法: レイヤール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

SPサーモコート/SPスーパーサーモコート



アクリル樹脂を主成分とするエマルジョンと骨材で構成された、高耐久・高反射厚膜水性保護塗料。

各18kg/缶
(SPサーモ 3色、SPスーパーサーモ 1色)

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材専用高反射水性保護塗料。

18kg/缶 4色

SPミッドカラー



明度を下げることで照り返しによる眩しさを抑えつつ、優れた遮熱効果を発揮するアスファルト系防水材専用高反射水性保護塗料。

18kg/缶 4色

SPクリーンカラー



土、砂、花粉、珪藻類等の自然環境に起因した堆積物の影響から防水層表面を保護する効果を持つ、骨材入り高反射水性保護塗料。

18kg/缶 3色

SPベース



骨材入り水性保護塗料。市販の砂骨ローラーにて塗布する。

8kg/缶

SPトナー



SPシリーズ保護塗料の工程管理用着色材。

1kg(600ml)/缶(計量カップ付)

OT洗浄剤



レイヤール工法用弱溶剤系の洗浄剤。
※減粘剤としての添加は不可。

15kg/缶

クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整材。
既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース : 8kg/缶
クールベースパウダー : 16kg/袋

リグレー・ネオ/リグレー・ネオ パウダー



下地補修用SBR系ポリマーセメントモルタル。
リグレー・ネオ(SBR系混和液)とパウダーを混練して使用。※水を添加しないでください。

リグレー・ネオ 18kg/缶
リグレー・ネオ パウダー 厚塗り用:20kg/袋
薄塗り用:20kg/袋

アスグランド



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド : 9kg/缶
グランドパウダー : 12kg/袋

リグレーエポ



荒れたコンクリート等の下やタイル、金属材など各種下地材への接着性に優れた水性エポキシ系の下地調整材。

28kg/セット
(主剤:4kg、硬化剤:4kg、パウダー:20kg/袋)

GCライン(カート/ジャンボ)



防水層の貼仕舞、砂面処理、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
※リグレーエポは、シルバー塗料の上には使用できません。 ※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

適用工法：レイヤオール工法…■ アスレイヤ水性工法…●

ギルフォームS/W



外断熱用の硬質ウレタンフォーム断熱材。SとWの2サイズがある。

S：605mm×910mm
W：1,200mm×900mm(受注生産品)
厚さ：25,30,35,40,50,60,70,75mm
(Sの70,75mmは受注生産)

RBボード
スタイロフォームRB-GK-II



RBボード スタイロフォームRB-GK-II

保護コンクリート仕上げに最適な、完全ノンフロタイプ硬質ポリスチレンフォーム断熱材。

910mm×910mm
厚さ：25,30,35,40,50,60,75mm

クールボンド



ギルフォーム貼付用水性接着剤。

16kg/缶

セメントMS



ギルフォーム貼付用変成シリコーン系接着剤。

1.3kgカートリッジ
12本/箱(ノズル2個入)

RBセメント



RBボード、スタイロフォームRB-GK-II 貼付用アスファルト系接着剤。

20kg/缶

Pシート



立上りをモルタル仕上げにする際などに使用する不織布シート。

1,020mm×20m

絶縁クロス1000



ポリプロピレンのフラットヤーンクロスを使用した絶縁材。

1m×100m

RBキャント1500



発泡ポリエチレン製緩衝材。裏が粘着面となっており、立上り際の下地になじむよう切込み入り。

1,500mm×150mm
厚さ：20mm 34本/箱

ASパッチ



立上り入隅部の増貼り等に使用する片面粘着テープ。

200mm×16m

OTシール



立上り入隅部の膜厚確保のために使用する、速乾性1液のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/梱包

各種断熱材 厚さ別梱包数

厚さ (mm)	梱包数 (枚/梱包)		
	RBボード スタイロフォームRB-GK-II	ギルフォーム	
		S	W
25	20	16	10
30	15	14	8
35	15	12	7
40	10	10	6
50	10	8	5
60	8	7	4
70	—	6	3
75	6	5	3

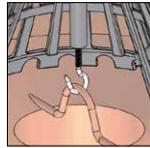
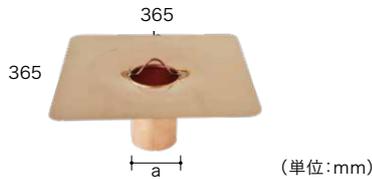
※各材料の寸法等は、実際の製品と若干異なる場合があります。

※アスファルトルーフィングシート類につきましては、納品時に一定の割合で1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

材料紹介

■各表の許容最大屋根面積は、SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

リードレンZ たて



リードレンキャップZたての軸心部と連結

リードレンZたて 規格と排水能力 (単位:mm)

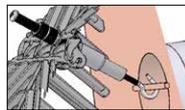
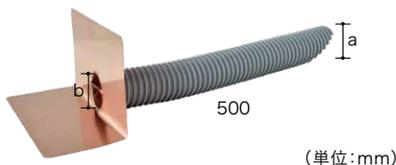
連結式の改修工用たて型銅製ドレン。丸棒部でドレンキャップと連結する。既存ドレン上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

呼称	35*	45*	50*	60	65	75	80	95	120*	130*	140*	150*	160*
外径(a)	35	45	50	58	64	74	80	95	119	129	139	149	159
内径(b)	33	43	48	56	62	72	78	92	117	127	137	147	157
許容最大屋根面積 (m ²)	22	44	60	90	118	176	218	339	645	804	984	1190	1410

13サイズあり(標準品は5サイズ)
※詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください

*印は特注品です。(納期:約3週間)

リードレンZ 横



リードレンキャップZ横の軸心部と連結

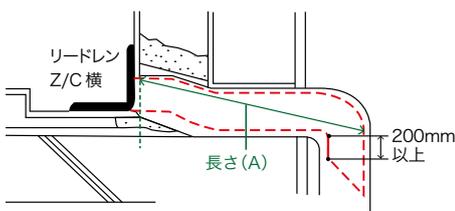
リードレンZ横 規格と排水能力 (単位:mm)

連結式の改修工用模型銅製ドレン。丸棒部でドレンキャップと連結し、既存ドレン上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

呼称	40*	50*	60	75	90	115*	140*
ホース 外径(a)	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)	30	36	49	60	73	99	124
配管勾配ごとの許容最大屋根面積 (m ²)	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

7サイズあり(標準品は3サイズ)
※詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

*印は特注品です。その他に35・100タイプを作成できます。(納期:約3週間)



【リードレンZ/C横 施工上の注意】

「リードレンZ/C横」は、ドレン設置位置から排水管のエルボ外端までが**400mmを超える場合、受注生産となります。**(納期約3週間)

現場にて左図の「長さ(A)+200mm以上」をご確認の上、発注時にホースの“有効長さ”をご指定ください。(500mm以上100mm単位)

◀リードレンZ/C横のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性が高まります。(左図参照)

【リードレン規格表の共通注意事項】

※ドレン寸法は小数点以下を端数処理しており、実際の製品とは若干の誤差があります。

※既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。

※リードレンZ(たて/横)は、既存ドレンに差し込む二重ドレンのため、設置後の排水容量が既存ドレンとは異なります。各表を参考に、改修後の排水能力についてご確認ください。

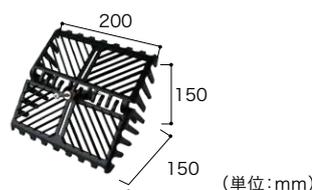
リードレンキャップZ たて



リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定する。アルミダイキャスト製。

1個入/箱

リードレンキャップZ 横



リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。中央のJフックで連結固定する。納まりに合わせてキャップの角度調節が可能。アルミダイキャスト製。

1個入/箱

ドレンゲージ DX



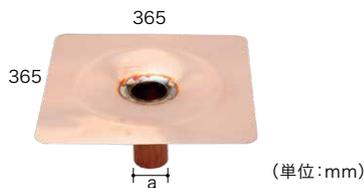
既存ドレンに差し込むだけでリードレンZ/C たておよび横の適正サイズがわかる、既存ドレン内径測定器。

1個入/箱
収納時 長さ210mm リールキーホルダー付属

※リードレンキャップZ たて/横は、リードレンZ たて/横との組み合わせ以外では使用できません。(リードレンC たて/横には使用不可)

■各表の許容最大屋根面積は、SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

リードレンCたて



改修工事用たて型銅製ドレン。既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

13サイズあり(標準品は5サイズ)

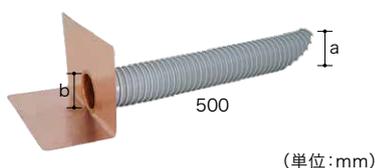
※詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください

リードレンCたて 規格と排水能力 (単位:mm)

呼称	35※	45※	50※	60	65	75	80	95	120※	130※	140※	150※	160※
外径(a)	35	45	50	58	64	74	80	95	119	129	139	149	159
内径(b)	33	43	48	56	62	72	78	92	117	127	137	147	157
許容最大屋根面積(m ²)	22	44	60	90	118	176	218	339	645	804	984	1190	1410

※印は受注生産品です。(納期:約2週間)

リードレンC横



改修工事用横型銅製ドレン。既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

7サイズあり(標準品は3サイズ)

※詳細については「改修用ドレンカタログ」をご参照ください。

リードレンC横 規格と排水能力 (単位:mm)

呼称	40※	50※	60	75	90	115※	140※
ホース 外径(a)	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)	30	36	49	60	73	99	124
配管勾配ごとの許容最大屋根面積(m ²)	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211
	1/125	—	—	—	—	—	188
	1/150	—	—	—	—	—	172
1/200	—	—	—	—	—	—	271

※印は受注生産品です。(納期:約2週間)

※その他に35・100タイプを作成できます。(特注品 納期:約3週間)

トルネードドレンたて80/90



改修用排水量改善たて型二重ドレン。排水口の羽根形状で排水量を増加する画期的な構造。新築時の直径100mm縦引きドレンと同等の排水力。

各1個/箱

(キャップ、専用ナット、専用シリコンゴム付)

ドレンキャップ190



アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。ステンレス製板バネ(滑り止めゴム被覆処理)をドレン内部に差し込んで設置。

色:黒

1個/箱

ドレンキャップたてAS

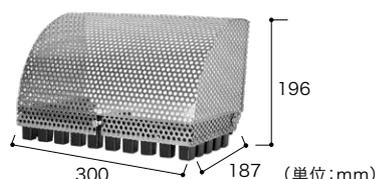


アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。ステンレス製板バネ(滑り止めゴム被覆処理)をドレン内部に差し込んで設置。

色:黒、ライトグレー

5個/箱

ドレンキャップ横引用DX

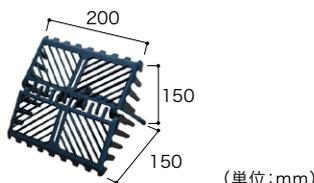


ベース部は鋳鉄製、上部はステンレスパンチングメタル製のドレンキャップ。約5kgの自重がある据置型で、耐風性に優れる。

重量:5kg

1個/箱

ドレンキャップ横引用C200

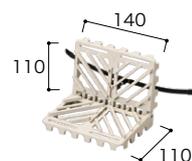


角度調節ができるアルミダイキャスト製ドレンキャップ。固定用ステンレス製板バネ(滑り止めゴム被覆処理)付。

色:黒

1個/箱

ドレンキャップ横引用AS



角度調節ができるアルミダイキャスト製ドレンキャップ。固定用ステンレス製板バネ(滑り止めゴム被覆処理)付。

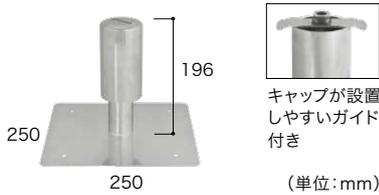
色:ライトグレー

1個/箱

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

材料紹介

ステンレスペーパスⅡ



キャップが設置しやすいガイド付き

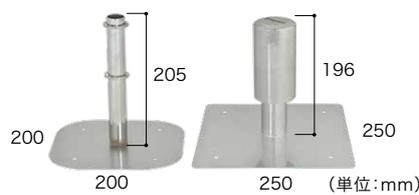
(単位:mm)

防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。

70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

ステンレスペーパスWⅡ



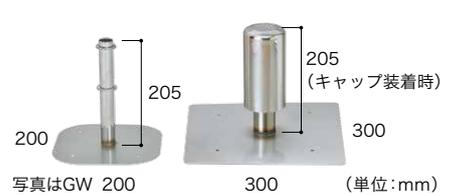
(単位:mm)

断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。全体の形状を小型・軽量化したコンパクト設計。

70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱

ステンレスペーパスG/GW

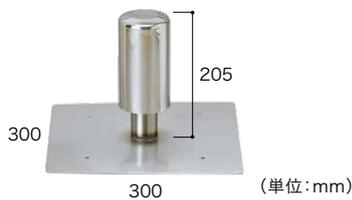


(単位:mm)

逆流防止弁付の平面部用通気材。Gは非断熱用、GWは断熱工法用の二重式。70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱 端部締結用銅線同梱 ※受注生産品
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

ステンレスペーパスN



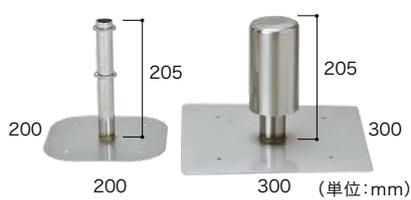
(単位:mm)

防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。

70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱 端部締結用銅線同梱
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

ステンレスペーパスW



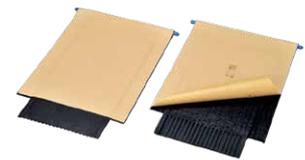
(単位:mm)

断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。

70~80m²に1カ所の割合で設置。

1個/箱 端部締結用銅線同梱
*積雪寒冷地(北海道・東北・北陸エリアおよび新潟県)対応

ペーパス(立上り用)



合成ゴム製の立上り部用通気材。10mに1カ所程度を目安に設置。

幅:240mm 高さ:350、500、700、1000mm
各サイズ 5枚/箱

ステンレスタイ362



ステンレスペーパスⅡ・WⅡ設置に使用するステンレス製防水層端部締結バンド

長さ:362mm
20本/袋 簡易工具同梱

ステンレスバンドF



貫通管など、パイプ廻りの防水層端部固定用バンド。パイプの寸法に合わせてフープを切断して使用するフリーサイズ品。

フープ 5m
クリップ 10個/袋

FGボードE



立上り乾式保護ボード工法に用いる中空押出成型セメント板。

303mm×1,494mm
厚さ:15mm

適用工法：レイヤオール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

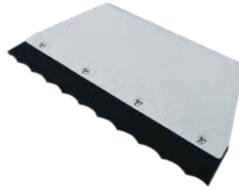
ゴムクシバケC-S



オールコート塗布用刷毛。
最大塗布量：1.3kg/m²

幅：150mm 1個
※交換用ゴム(5枚入)別売あり。

ゴムクシバケC-L



オールコート塗布用刷毛。
最大塗布量：1.3kg/m²

幅：300mm 1個
※交換用ゴム(5枚入)別売あり。

ゴムクシレーキC



オールコート平面部塗布用レーキ。
最大塗布量：1.4kg/m²

幅：300mm 1個
※交換用ゴム(5枚入)別売あり。
*柄は市販品を別途ご用意ください。

バンクスローラー平場用/平場用II



平面部へのルーフィング貼り付け時に用いる転圧
作業用のルーフ押し器。
平場用IIは、部品交換せずに1,000mm幅と
900mm幅を調整可能。

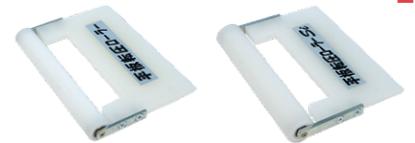
ステッチャー



防水シートの出入隅部、3枚重ね部などの転圧用
ローラー。

5本/箱

平板転圧ローラー/平板転圧ローラーSi



転圧施工用の樹脂製小型ローラー。
平板転圧ローラーSiは、ローラー部がシリコン
チューブ製。

ローラー幅：145mm
直径：約20mm Si約27mm 各1個

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

材料一覧

適用工法: レイヤオール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

種類	品名	規格	備考	適用工法
塗膜材	オールコート	20kg/セット (共通A剤:5kg/缶 B剤:15kg/缶)	常温反応型改質アスファルト塗膜材 (平面部用)	■
	オールコート立上り用	20kg/セット (共通A剤:5kg/缶 B剤:15kg/缶)	常温反応型改質アスファルト塗膜材 (立上り部用)	■
	アスレイヤ減粘剤	6kg/缶	オールコート用減粘剤	■
	アスレイヤ硬化促進剤	6kg/缶	オールコート用硬化促進剤	■
	レイヤコート水性	17kg/缶	水性改質アスファルト塗膜材	●
	ビル増粘剤	5kg/缶	レイヤコート水性 立上り用増粘剤	●
	水系用硬化剤(標準・速硬化・夏用)	各0.3kg/缶×4缶/箱	レイヤコート水性用硬化剤	●
シート・テープ	強力アンダーFS	1m×16m 厚さ:1.0mm(厚みに粘着層含まず)	粘着層付通気絶縁用 改質アスファルトルーフィング	■
	強力アンダーF	1m×16m 厚さ:1.5mm	粘着層付改質アスファルトルーフィング	■
	強力フラットA	1m×8m 厚さ:1.8mm	金属箔積層繊維面材仕上げ 改質アスファルトルーフィング	■
	レイヤベスト	1m×20m 厚さ:1.0mm(カット品:200mm×20m)	改質アスファルトシート	■
	レイヤソフト	1m×20m 厚さ:1.0mm(カット品:200mm×20m)	改質アスファルトシート	●
	レイヤキャップ	1m×8m	砂付改質アスファルトシート	■
	マットFCⅡ	1,050mm×50m (カット品:200mm×50m)	立上り用補強布 (表面:メッシュ、裏面:不織布)	■●
	Pシート	1,020mm×20m	立上り用モルタル仕上げ用不織布シート	■
	ダンパーシート	1m×32m 厚さ:0.8mm(粘着層含む)	部分接着型防湿シート	■
	新強力エコフィットC	1m×8m 厚さ:2.9mm	粘着層付改質アスファルト砂付ルーフィング	■
	ASパッチ	200mm×16m	改質アスファルト系増粘剤用片面粘着テープ	■
	プライマー	OTプライマーA	16kg/缶	ウレタン系プライマー
水性プライマーMS		18kg/缶	アクリル系水性プライマー	■
水性プライマーAS		17kg/缶	アスファルト系水性プライマー	■
水性プライマーL		18kg/缶	アクリル系プライマー	■
水性プライマーC		18kg/缶	アスレイヤ水性用プライマー	●
プライマーCR		3kg/缶	金属部用溶剤系プライマー	●
速硬化OTプライマーMブルー		8kg/缶	速乾性伸介プライマー	■
OT洗浄剤		15kg/缶	弱溶剤系洗浄剤	■
断熱材	RBボード	910mm×910mm 厚さ:25,30,35,40,50,60,75mm	ノンフロン押出法ポリスチレンフォーム	
	スタイロフォームRB-GK-II	910mm×910mm 厚さ:25,30,35,40,50,60,75mm	ノンフロン押出法ポリスチレンフォーム	
	ギルフォームS	605mm×910mm 厚さ:25,30,35,40,50,60,70,75mm	耐熱型硬質ウレタン系フォーム (70mm、75mmは受注生産品)	
	ギルフォームW	900mm×1,200mm 厚さ:25,30,35,40,50,60,70,75mm	耐熱型硬質ウレタン系フォーム ※受注生産品	
接着剤	クールボンド	16kg/缶	水性ギルフォーム用接着剤	
	セメントMS	1.3kgカートリッジ:12本/箱 (ノズル2個入り)	ギルフォーム貼付用接着剤	
	RBセメント	20kg/缶	ポリスチレンフォーム断熱材用 アスファルト系接着剤	

適用工法：レイヤオール工法… ■ アスレイヤ水性工法… ●

種類	品名	規格	備考	適用工法
保護塗料	SPスーパーサーモコート	18kg/缶	高耐久・高反射 水性アクリル系保護塗料 色:1色	■
	SPサーモコート	18kg/缶	高耐久・高反射 水性アクリル系保護塗料 色:3色	■
	SPクリーンカラー	18kg/缶	高強度・高反射 水性アクリル系保護塗料 色:3色	■
	SPファインカラー	18kg/缶	高反射 水性アクリル系保護塗料 色:4色	■
	SPミッドカラー	18kg/缶	高反射・低明度 水性アクリル系保護塗料 色:4色	■
	SP ベース	8kg/缶	アクリル系水性保護塗料	■
	SP トナー	1kg(600ml)/缶(計量カップ付)	保護塗料工程管理用着色剤	■
通気材	ペーパス(立上り用)	高さ:350・500・700・1,000mm 幅:240mm 各5枚/箱	立上り部用 通気材	
	ステンレスピーバスII/WII	250mm×250mm×H196mm 1個/箱	平面部用 ステンレス製通気材 (WIIは断熱工法用)	
	ステンレスピーバスG/GW	300mm×300mm×H205mm 1個/箱	平面部用 逆流防止弁付ステンレス製通気材 (GWは断熱工法用) ※受注生産品	
下地処理材	クールベース	混和液:8kg/缶 パウダー:16kg/袋	水性ゴムアスファルト系下地調整材	■
	リグレー・ネオ	18kg/缶	下地調整用ポリマーセメントモルタル SBR系混和液	
	リグレー・ネオ パウダー 厚塗り用	20kg/袋	下地調整用ポリマーセメントモルタル 粗粉体	
	リグレー・ネオ パウダー 薄塗り用	20kg/袋	下地調整用ポリマーセメントモルタル 細粉体	
	リグレーエポ	28kgセット(主剤:4kg/缶 硬化剤:4kg/缶 パウダー:20kg/袋)	下地調整用速硬化型水性エポキシ樹脂モルタル	
	アスグランド	アスグランド:9kg/缶 グランドパウダー:12kg/袋	アスファルト系防水用仮防水材	■
工具	ゴムクシバケC-S	幅:150mm 1個	塗膜材塗布用刷毛	■
	ゴムクシバケC-L	幅:300mm 1個	塗膜材塗布用刷毛	■
	ゴムクシレーキC	幅:300mm 1個	塗膜材塗布用レーキ	■
ドレン	リードレンC たて/横	1個	改修用銅製ドレン	
	リードレンZ たて/横	1個	連結式改修用銅製ドレン	
	リードレンキャップZ たて/横	各1個	リードレンZ専用連結式キャップ 色:黒	
	ドレンキャップ190	1個/箱	たて型用キャップ(大) 色:黒	
	ドレンキャップAS	5個/箱	たて型用キャップ(小) 色:黒、ライトグレー	
	ドレンキャップ横引用C200	1個/箱	横引用キャップ 色:黒	
	ドレンキャップ横引用AS	1個/箱	横引用キャップ 色:ライトグレー	
トルネードドレンたて80/90	筒外径:80、88mm 1個/箱	改修用排水量改善たて型ドレン (キャップ、専用ナット、シリコーンゴム付)		
副資材	FGボードE	303mm×1,494mm 厚さ:15mm	中空押出成型セメント板	
	GCライン	330ccカート 850ccジャンボカート 各10本/箱	変成シリコーン系シーリング材	■●
	OTシール	320ccカートリッジ 20本/梱包	ウレタン系シーリング材(速乾性1液)	
	RBキャント1500	1,500mm×150mm 厚さ:20mm 34本/箱	保護コンクリート仕上げ用 防水層保護コーナー部材	
	絶縁クロス1000	1m×100m	ポリプロピレン製フラットヤーシクロス	

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

※改質アスファルトシート類につきましては、納品時に一定の割合で1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

施工上の注意

レイヤオール工法

- オールコートまたはオールコート立上り用を5日以上あけてから塗り重ねる場合は、OTプライマーA(0.15kg/m²)または水性プライマーL(0.15kg/m²)を塗布してください。
- 塗布後硬化・乾燥するまで養生が必要です。硬化・乾燥前の防水層に水をこぼしたり、物を置いたり、歩行したりしないでください。
- 立上り部を露出砂付仕上げとする仕様では、端部に押え金物による固定を行うことを原則とします。
- 立上り砂付仕上げにおける保護塗料の塗布量は露出工法立上り部を参照ください。
- 水張り試験は硬化を確認してから行ってください。施工後24時間以上が目安ですが、硬化時間は気温や湿度、換気などの条件で変わりますので、歩行可能な状態まで硬化していれば水張り試験は可能です。
- エンシシートには、オールコート、オールコート立上り用は接着しません。
- オールコート施工の際、ルーフィング類の貼付工程には減粘剤は使用できません。
- ステンレス下地・硬質塩ビ下地・鉛下地は目荒らしを行った上、水性プライマーLまたはプライマーBPをご使用ください。
- その他の金属、ドレン廻り等は水性プライマーLまたはプライマーBPをご使用ください。
- ふくれ防止脱気装置を設置してください。(ステンレスペーパー各種、ペーパー(立上り用)価格別途)
- 立上り部塗膜仕上げでは、保護塗料塗布までの期間は、夏季3日以内、春秋冬は5日以内を目安とし、期間を過ぎた場合はOTプライマーA(0.15kg/m²)を塗布してください。
- 剥離の原因になりますので、保護塗料はオールコートの硬化を確認後塗布してください。
- 緑化帯・土砂が堆積する場所にはSPクリーンカラーをお使いください。
- 保護塗料をSPクリーンカラーにした場合の塗布量:通常0.5~0.6kg/m²(1回塗り)、堆積物が予測される場合0.7~0.8kg/m²(2回塗り合計) 仕様番号末尾[・SC] 例SL-2G・SC
- 保護塗料(SPサーモコート、SPファインカラー、SPミッドカラー、SPクリーンカラー)により設計価格は異なります。
- 環境対応溶剤を使用していますが、屋内での施工時は必ず換気をしてください。

■立上り部材料組合せ(3パターン)

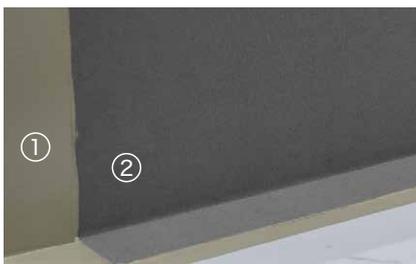
レイヤオール工法では、立上り部の材料組合せを変更することができます。

組合せは以下の3パターンとなり、性能がそれぞれほぼ同等となるため、相互に入れ替えることが可能です。

状況に応じて選択・対応してください。

(仕様によっては入れ替えが不可な場合もあります。使い分けなどの詳細については各仕様ページをご覧ください。)

パターン㊦



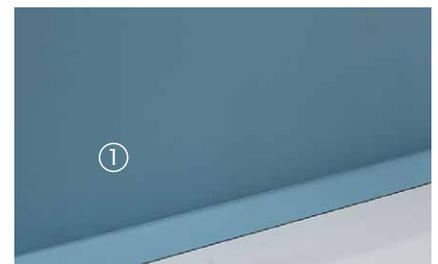
①オールコート立上り用1.2~1.3kg+②レイヤベスト

パターン㊧



①オールコート立上り用1.2~1.3kg+②マットFCII
+③オールコート立上り用1.2~1.3kg

パターン㊨



① 強力アンダーF

アスレイヤ水性工法

- 3タイプある水系硬化剤を環境、温度条件から選択してください。
- 増粘剤併用の場合には、可使時間が短くなりますので、添加量は控えながらご使用ください。
- 水張り試験は硬化を確認してから行ってください。施工後48時間以上が目安ですが、硬化時間は気温や湿度、換気などの条件で変わります。
- 密閉された室内や高温状態の箇所では硬化、乾燥を良くするため、養生期間中は送風機等をご使用ください。また結露水の発生がある場合は、除湿機等を併用してください。
- 材料の攪拌には必ず携帯用攪拌機(1300rpm リシン羽根)をご使用ください。約20秒程度で十分に混合します。必要以上に攪拌を続けると材料が不安定になることがあります。

ご使用時の注意点 | 定期的なメンテナンスのお願い

■ご使用時の注意点

〈FRAT仕上げ・露出砂付仕上げ〉

- 通常時における防水層上の歩行及び使用は厳禁です。
- 維持補修の目的で防水層上を歩行する際には、防水層を損傷する可能性の低い履物(ゴム底の靴などの柔らかい履物)を使用してください。
- 防水層の表面が雨や雪でぬれていたり、落葉・苔・砂・埃などが堆積していると防水層上は滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- 防水層上に溶剤・油・薬品類をこぼさないよう、注意してください。万が一、こぼれてしまった際には専門工事店にご相談ください。
- 防水層に傷をつけたり、防水層上で物を落としたり、引きずったりすることは避けてください。
- 雪下ろしには、金属製のスコップなどの防水層を損傷させやすい道具を使用しないでください。
- 防水層の上に、重量物や振動物を載せないでください。やむを得ない場合には、バリキャップや防振ゴム等、防水層の養生となるもので防水層本体を保護してください。
- たばこの火の投げ捨てや防水層の上で火気の使用は厳禁です。
- 防水層上に直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。

〈保護コンクリート仕上げ〉

- 火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- 植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。

〈FRAT仕上げ・露出砂付仕上げにおいては〉

露出仕上げにおいては以下のような状況が見られる事がありますが、防水性能に支障はありません。

- 下地の含有水分による防水層のふくれや、砂付ルーフィングの砂粒の隙間に入り込んだ湿気による表層のふくれ
- 雨水が滞留しやすい箇所に粉塵、泥、花粉、黄砂等が堆積し、乾燥収縮する事で生ずる表層クラック
- 砂付ルーフィングに付着している余剰砂の脱落
- 砂に含有される鉄分による錆

※保護塗料は経年によりひび割れや減耗を生じます。これらの現象は防水性能に支障を及ぼすものではありませんが、保護塗料は定期的な塗り替えをご推奨します。(有償)

※端末シールは経年によりひび割れや減耗を生じます。納まりが適切であれば、これらの現象は防水性能に直ちに支障を及ぼすものではありませんが、端末シールは定期的な打ち替えをご推奨します。(有償)

■定期的なメンテナンスのお願い

〈FRAT仕上げ・露出砂付仕上げ〉

- 防水層の表面状況の点検…1年に1回 防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなふくれの発生の有無、設備基礎廻りの劣化状況
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回
- ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況
- 仕上塗料の塗り替え…塗料により塗り替え時期が異なるのでご相談ください。

〈保護コンクリート仕上げ〉

- 植物の発生状況の点検、清掃…1年に1回
伸縮目地部・ドレン廻りの植物の発生状況、伸縮目地部・ドレン廻りに 堆積している土砂の除去
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回
水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回ゴミの清掃



東西アスファルト事業協同組合

<https://www.tozai-as.or.jp>

田島ルーフィング株式会社

<https://tajima.jp>

東京支店	〒101-8579	千代田区外神田4-14-1	TEL 03-6837-8888
大阪支店	〒550-0003	大阪市西区京町堀1-10-5	TEL 06-6443-0431
札幌営業所	〒060-0042	札幌市中央区大通西6-2-6	TEL 011-221-4014
仙台営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央1-6-35	TEL 022-261-3628
北関東営業所	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-49-8	TEL 048-641-5590
千葉営業所	〒260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1	TEL 043-244-3711
横浜営業所	〒231-0012	横浜市中区相生町6-113	TEL 045-651-5245
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町1-12-20	TEL 042-503-9111
金沢営業所	〒920-0025	金沢市駅西本町1-14-29	TEL 076-233-1030
名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄1-9-16	TEL 052-220-0933
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通6-1-17	TEL 078-330-6866
広島営業所	〒730-0029	広島市中区三川町2-10	TEL 082-545-7866
福岡営業所	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-35	TEL 092-724-8111

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。
- ・下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。